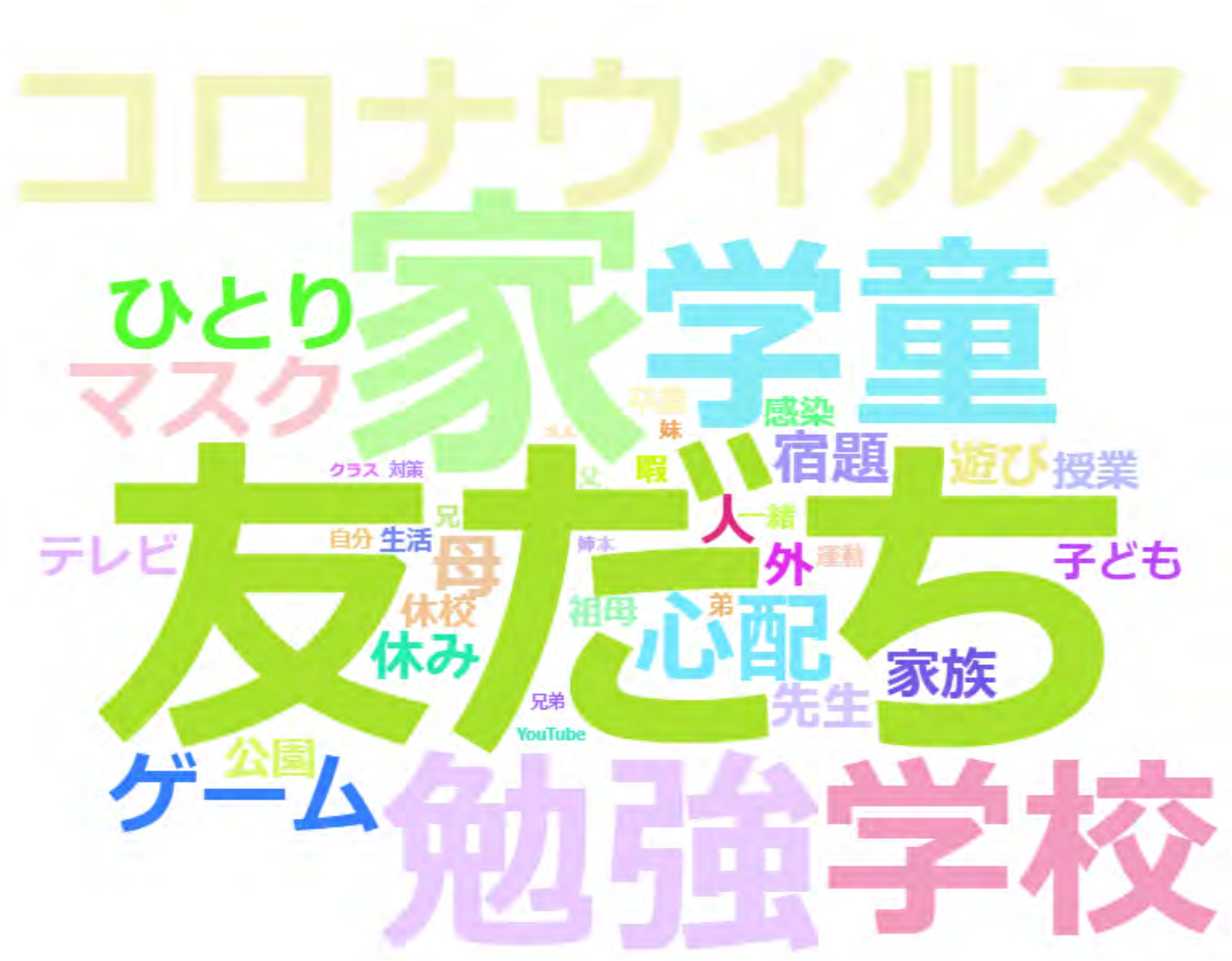
Save the Children

「子どもの声・気持ちをきかせてください！」
2020 年春・緊急子どもアンケート結果
（全体版報告書）

2020 年 5 月 3 日

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



目次

1.　はじめに....4
2.　提言....4
3.　アンケート調査概要....8
4.　アンケートを読むにあたって....12
5.　アンケート結果....15
＜自由回答＞....16
＜3つの大カテゴリーごとの子どもたちの声＞....18
【大カテゴリー1】日中の過ごし方....18
【大カテゴリー2】困っていること・心配なこと・気になっていること....20
【大カテゴリー3】新型コロナウイルス対応策に関する要望　他（学童保育で過ごす声、その他）....29
<集計においてみられた学年ごとの特徴>....40
6.　アンケートでは聴こえづらかった子どもたちの状況に関する支援者の声....42
➢外国にルーツがある子どもたち....42
➢チャイルドラインに寄せられる声....43
➢経済的に困難な状況にある子どもたち....45
➢不登校の子どもたち....46
➢医療的ケアにつながる子どもたち....47
➢障害のある子どもたち....48
➢社会的養護にある子どもたち....49
7.　子どもの声を聴く取り組みを行っている連携団体からの報告....51
➢石巻市子どもセンター　らいつ　の取り組み　（宮城県）....51
➢子どもの権利条約フォーラム in とうかいの取り組み　（東海地方）....52
8.　研究者からのコメント....54
9.　おわりに....57
10.　新型コロナウイルス感染症に関するセーブ・ザ・チルドレンの活動や今後の予定....59
11.　参考資料....60
➢アンケート用紙....60
➢小カテゴリー集計結果（年齢4区分）....61
➢過ごし方に関する集計結果（補足）....64
➢子どもたちに読んでほしい「こんなとき、どうする？」....67
➢国連・子どもの権利委員会：新型コロナ感染症（COVID-19）に関する声明....69

※表紙の図について
表紙の図は、年齢・都道府県以外のすべての回答についてのワードクラウドであり、単語の出現頻度が高いほど大きく表示されている。

アンケートを提出してくれたみなさん、この報告書を手にとってくれた子どものみなさんへ

新型コロナウイルス感染症の対策がすすむなか、休校など子どもたちにも大きく関わる取り組みが行われているのに、みなさんの声があまりきかれていないと思っていました。セーブ・ザ・チルドレンは、「子どもの権利」を守るために活動をしています。子どもたちはどんなときでも自分たちの思いや意見を伝える権利があります。そこで、子どもたちがどんなことを考えているのか、何を望んでいるのかを知り、社会や政府に届けるため、このアンケートを行いました。

短い期間でしたが、全国各地の小学生から１８才くらいまで、1400人以上がアンケートに回答してくれました。協力してくれたみなさん、本当にありがとうございます。たくさんのことをみなさんから教えてもらいました。書いてくれたことを全部紹介したかったのですが、いろいろな学年や地域の声がのるように、そして子どもの権利を考えるときに大切な声かどうかなどを考えて、この報告書にのせる声を選びました。全部の声をのせることができなくて、ごめんなさい。

みなさんから教えてもらったことをまとめて、セーブ・ザ・チルドレンは政府や国会議員、社会に子どもたちのための対策をしてくれるように伝えていきます。少しでもみなさんにとってよいことが行われるよう、私たちもがんばります。

また、この報告書を手にとってくれたみなさん。この中には、みなさんと同世代の子どもたちが、感じていることがそのままのっています。ぜひ一つひとつの声を読んでみてください。報告書の中には少し読みにくいところもあるかもしれないので、その時はまわりの人に聞いてみてください。もしみなさんも何か感じていることがあったら、信頼できる大人の人に伝えたり、落ち着いたら子ども同士でも話をしてみてください。

セーブ・ザ・チルドレンは、新型コロナウイルス感染症の対策でも、どのようにしたら子どもたちにとって一番よいことができるのかをみなさんと一緒に考えていけたらと願っています。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　スタッフより

※本報告書に掲載された内容を引用する場合は、必ず出典を明記してください。なお、報告書の内容を改編して掲載することや、営利目的・公序良俗等に反する利用はお断りいたします。

Save the Children

1.　はじめに

2020 年、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、子どもにも大人にもその影響が広がっています。2 月から 3 月にかけては全国一斉休校要請を含め、さまざまな対応策が国や地方自治体によってとられていますが、その状況を子どもたちがどのように感じているかは、十分に明らかにされているとは言えません。

一方、自分たちに関わることについて意見を聴かれることは、子どもの権利条約が規定している大切な子どもの権利の一つです。

そこで、セーブ・ザ・チルドレンは、3 月 17 日～3 月 31 日にかけて、全国各地の小学生から 18 歳くらいまでの子どもたちを対象とした、緊急アンケートを実施しました。3 月 27 日には 3 月 17 日～22 日に回収した 961 件の声をまとめた速報版を発表しました。本報告書は、3 月 31 日までに回答のあったすべての内容をまとめた全体版報告書であり、各地で子どもたちが何を考え、学校の再開や進級・進学、また卒業後の生活についてどのように感じているのかを明らかにし、社会や政府に向けて発信することを目的としています。

本報告書から明らかになったことをふまえ、新型コロナウイルス感染症対策においても、子どもの権利が実現されるよう、セーブ・ザ・チルドレンは提言を作成しました。これをもとに、政策決定者への働きかけを行っていきます。

2. 提言

新型コロナウイルス感染症影響下における、子どもの育ち・学びの保障に関する提言

～「2020 年春・緊急子どもアンケート」 1,422 件の回答より～

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

この度、セーブ・ザ・チルドレンの「『子どもの声・気持ちをきかせてください！』 2020 年春・緊急子どもアンケート」に寄せられた回答結果と子どもの権利条約をふまえ、下記 7 点の対応を日本政府に求めます[1]。

1. あらゆる状況にいる子どもたちの意見を聴き、新型コロナウイルス感染症対策などに最大限反映してください

（子どもの権利条約：第 3 条 子どもの最善の利益、第 12 条 子どもの意見尊重）

子どもたちからは、意見尊重の必要性が表明され、支援者からはより困難な状況におかれる子どもたちの声に耳を傾けることの重要性が指摘されました。子どもたちは社会の当事者であり、子どもに影響を及ぼす社会的事柄のすべてについて意見を聴かれ、正当に重視される権利を持っています。

[1] 新型コロナウイルス感染症対策において、国連も各国政府に対し多くの声明等を発出しています。
「Covid-19 との闘いにおいて人権アプローチに則るよう呼びかける国連人権条約機関の共同声明」（2020 年 3 月 24 日）
国連子どもの権利委員会「新型コロナ感染症（COVID-19）に関する声明」（2020 年 4 月 8 日）。

子どもの権利条約の締約国として、日本政府には、感染症対策においても、より困難な状況にある子どもたちを含めたあらゆる状況にいる子どもたちの意見が聴かれるよう対応を求めます。自治体や学校などにおける子どもの意見表明の機会を国として支援するほか、子どもたちからの国に対する要望などを重視し、政策や支援策などに最大限に反映することを要望します。

2．子どもたちに向けて、適切な情報提供とメッセージの発信をおこなってください

（子どもの権利条約：第 13 条 表現・情報の自由、第 17 条 適切な情報へのアクセス）

子どもたちは、自分たちの理解度やコミュニケーション方法に合わせた正確な情報提供を求めており、その内容は新型コロナウイルス感染症に関する基礎知識、政府による対策の根拠・効果、今後の見通しなど多岐にわたります。また、子どもたちに向けた、政策決定者のメッセージも求めています。情報提供に関しては、外国にルーツのある子どもたちへの配慮も支援者から指摘されました。

発達段階ごとの子どもの理解度に合わせて、多様な言語やコミュニケーション方法を用いて、子どもたちに向けたわかりやすく信頼性の高い情報提供とメッセージの発信をおこなうことを求めます。

3．すべての子どもの多様な育ち・学びを保障し、子ども同士の格差をうまない対策を進めてください

（子どもの権利条約：第 2 条 差別の禁止、第 6 条 生命の権利、生存・発達の確保、第 23 条 障害のある子どもの権利、第 26 条 社会保障への権利、第 27 条 生活水準への権利、第 28 条 教育への権利、第 30 条 少数者・先住民の子どもの権利、第 31 条 休息・余暇、遊び、文化的・芸術的生活への参加）

感染症拡大や休校が続くなかで、子どもたちの過ごし方や学習状況は、家族の状況、居住環境、近隣に住む友だちの有無、家庭内外の資源、居住地・学校の対応などにより、大きく異なることがわかりました。政府による家庭学習やオンライン教育が推奨されるなか、経済状況をはじめさまざまな事情により、それらにアクセスできていない・していない子どもたちが一定数いると推察されます。加えて、平常時から学校に行けない子どもたち、自然災害の被災地で暮らす子どもたちからの意見もありました。

感染症の影響下においても、すべての子どもたちの成長や教育機会を十分に保障し、子ども同士の格差を生じさせないよう、国として最大限の支援を求めます。その一環として、多様な学習リソースの確保・提供、既存の公的支援制度の弾力的運用・拡充を推進してください。支援策においては、子どもや家族の経済的事情、家族構成、就学・修学状況、保護状況、疾病、障害、国籍、出身地、使用言語、民族的・社会的出身、日本国内における法的地位、法への抵触、またはその他の事情にかかわらず、いかなる差別もなしに、すべての子どもを対象とすることを求めます。

4．学校再開に際しては、各学校現場の取り組みに合わせて国の支援をおこなってください

（子どもの権利条約：第 28 条 教育への権利、第 29 条 教育の目的）

子どもたちからは、休校措置により日常生活を送れていないこと、学力や体力の低下、生活習慣の乱れなどへの懸念が示されたほか、その状態から学校生活へ戻るのに際し、「本格再開の前に 1 日登校日を設けること」、「前年度の復習をおこなうこと」、「なくなった卒業式などの代替機会を確保すること」などの具体策があげられました。

各地の学校現場が子どもたちのニーズを反映しながら学校を再開できるよう、国として財政的・人的・技術的支援をおこなうこと、またその実施予定や詳細の通知などにおいて十分周知することを求めます。

5．子どものこころのケアに配慮した中長期的な取り組みを国として支援してください

（子どもの権利条約：第 6 条 生命への権利・生存・発達の確保、第 13 条 適切な情報へのアクセス、第 24 条 健康・医療への権利、第 39 条 犠牲になった子どもの心身の回復と社会復帰）

アンケートでは、自分や家族、友だちなどの感染への心配や不安、社会活動の参加が制限されることによる二次的な影響に対する声が多くありました。子どもの認知発達段階ごとの状況の受け止め方、ストレス反応や行動について、養育者やクラス担任など身近にいる大人が知り、変化に気づき、子どもが相談しやすい環境づくりや話を聴くこと、そして深刻なケースは早期にこころの専門家へつなぐことを意識的に行っていくことが大切です。

学校現場において、感染予防教育に加え、落ち着くためのリラックス法や相談先の紹介などの健康的なストレス対処法の教育を行うなど、学校再開時だけではなく、中長期的な子どものこころのサポートを視野に入れた取り組みが行われるよう、国として必要な支援を講じることを求めます。

6．休校要請など国の感染症対策による、子どもに対するインパクト調査・評価をおこなってください

（子どもの権利条約：第 4 条 締約国の実施義務）

感染症の拡がりや各種の対応策が子どもたちにもたらす影響について、本アンケートでは子どもたちからの回答を通じて現状の把握を試みましたが、その全容は見えていません。

今後の対策に活かすため、子どもや家庭、子どもたちが過ごす場へのインパクト調査・評価を国として早急に実施することを求めます。特に、子どもの育ちや学びが阻害されていないか、安全な環境で過ごせているか、経済的な負の影響を受けていないか、特定のグループの子どもたちが支援・教育から排除されていな

いかなどの、実態を把握することが重要です。また、自治体や学校などが独自に同様の調査を実施する場合は、それに伴う予算を国が遡及して確保するなど柔軟な対応策を求めます。

7．差別を助長しない取り組み、メッセージの発信を推進してください

（子どもの権利条約：第 2 条 差別の禁止）

子どもたちや支援者からは、人間関係や支援対象から外れることに対する不安の声もありました。国の政策において、差別や偏見が助長されるような状況が生じた場合、子どもの育ちや学びにおける影響は計り知れません。差別や偏見を助長する言動や方針は、いかなる場合でも許容しないとの姿勢を政府が明確に示すことが極めて重要です。

政府は、各種の感染症対策が特定の国・地域やそこにルーツ・つながりを持つ人、り患した人やその家族、医療・運送・小売り業など特定の業種に関わる人やその家族、そして子どもを含む特定の年齢層などに対する差別・偏見を助長することのないよう担保してください。また、政府関係者の言動においても一貫して、これらの差別・偏見を許容しないとのメッセージを発信してください。

3. アンケート調査概要

質問内容は下記 6 点。アンケート用紙は p.60 参照

<質問内容>

① あなたは何年生ですか？（当てはまらない場合、「その他」に年齢を書いてください。）
② 住んでいる都道府県を教えてください。
③ あなたは、学校が休みになってから、昼間どこで・だれと・何をして過ごしていますか？（いくつでも）
④ 学校が休みになってから、何かこまっていること、心配なことや気になっていることがあれば教えてください。（自分のこと、家族や友だち、まわりのことなどなんでも OK）
⑤ 学校がはじまるときや、就職・進学など新生活がはじまる前に、大人（家族や先生、地域の人など）や社会、政府にしてほしいことがあれば教えてください。
⑥ そのほか、どんなことでも思っていることを教えてください。

＜調査対象＞全国各地の小学生以上の子ども（18 歳くらいまで）

＜配布方法＞

・郵送：
セーブ・ザ・チルドレンの活動でつながった岩手・宮城・福島・熊本県の子どもたちへ直接送付
佐賀県放課後児童クラブ連絡会、いわき市学童保育連絡協議会に配布を依頼
・インターネット：
セーブ・ザ・チルドレンのホームページ、Facebook、Twitter
児童健全育成推進財団、岡山県学童保育連絡協議会など協力団体の SNS・メールなどを通じ周知を依頼

<回収方法>

・所定の web フォームへの入力
・印刷したアンケートをセーブ・ザ・チルドレンに直接郵送・FAX・メールまたは協力団体・協力学童保育を通じて提出

＜回収期間＞2020 年 3 月 17 日（火）～3 月 31 日（火）

＜参考＞

1 月下旬から 4 月にかけて政府・自治体が行った新型コロナウイルス感染症拡大に伴う主な対応

1 月 30 日	第 1 回新型コロナウイルス感染症対策本部開催
2 月 16 日	第 1 回新型コロナウイルス感染症対策専門家会議開催
2 月 27 日	第 1 5 回新型コロナウイルス感染症対策本部開催 全国一斉休校要請が出される
3 月 2 日～	要請を受け、全国約 99%の学校が休校を開始 放課後児童クラブ（学童保育）や保育園は継続
3 月 24 日	東京オリンピック・パラリンピックの 1 年延期発表
3 月 25 日	東京都による外出自粛要請
4 月 7 日	1 都 6 府県に緊急事態宣言 入学式の縮小や休校の延長、学童保育・保育園の登園自粛も始まる
4 月 16 日	全国に緊急事態宣言 再び各地で休校措置、登園自粛などがとられる

緊急子どもアンケート
回収期間
（3 月 17 日～31 日）

＜有効回答数＞

1,422 件（海外居住者以外の、小学生以上大学 1 年生世代までの回答。大学 1 年生は、調査対象として設定した 18 歳くらいまでと判断し、有効回答に含めた。学年・年齢、都道府県の無回答を含む。）

回答方法	回答数	割合
WEB	691	48.6%
郵便	594	41.8%
FAX	85	6.0%
メール	52	3.7%
計	1422	100.0%

（内、618 件が学童保育経由で送付。）

＜実施体制＞

主催：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

協力：広げよう！子どもの権利条約キャンペーン

＜設計・集計・分析にあたっての留意点・調査の制約＞

- 設計

・小学生から 18 歳くらいまでの幅広い子どもたちが答えやすいよう、デザインや設問の設計に配慮した。デザインは子どもたちが親しみをもち、手に取りやすいものとし、設問は、アンケートの目的や、回答は任意であることを子どもたちが読んでもわかりやすいように掲載した。アンケート用紙はp.60 参照。

・子どもたちが現在の状態・気持ちをそのまま記述できるよう、選択式ではなく自由回答式を採用した。紹介した自由回答は原文のままだが、明らかな誤字・脱字はセーブ・ザ・チルドレンが修正した。また、学年は回答当時のものである。

・アンケート設問や実施方法については、セーブ・ザ・チルドレンが起案し、安部芳絵氏（工学院大学）や「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」実行委員会から助言を得るとともに、セーブ・ザ・チルドレンの「子どものセーフガーディング指針」に基づき、特にアンケート協力者に対する負の影響を及ぼさないことや、個人情報の保護、子どもへの説明責任等の観点から内部関係者によるチェックを実施した。

・アンケートに回答した子どもたちが感染症に関する情報や、相談先などの情報を得ることができるようアンケート用紙、ウェブページにそれらの情報を示した。

・子どもたちが答えやすいようにするため、すべての質問を任意とした。そのため、本報告書では何らかの記述をした回答のうち、明らかに対象ではないというものを除いたものを有効回答とした。（明らかに対象ではないもの：年齢が小学生未満または 19 歳以上のもの、居住地が海外のもの）

- 集計・分析

・調査票の形式・配布先・回収方法が限定されていたため、結果として回答者の属性には偏りがみられた。なお、ウェブフォームによる入力の場合、保護者が入力を手伝ったと見られる回答もあった。

・自由回答の集計・分析にあたり、大カテゴリー・小カテゴリーを設定した。カテゴリーは、回答内容や件数をふまえ、子どもの権利の観点から特に重要であると思われる内容をセーブ・ザ・チルドレンが設定した。設問を横断した回答が複数みられたため、設問ごとに集計・分析をするのではなく、カテゴリー分類は、回答全体から行った。そのため、大カテゴリーと設問は対応しない。例えば、設問 4 の回答欄以外に心配なことが書かれていた場合でも、その回答を「困っていること・心配なこと・気になっていること」に分類した。また、1 件の回答から複数のカテゴリーに分類した場合がある。

・自由回答の集計・分析にあたり、年齢を「小学生（低学年）」「小学生（高学年年生）」「中学生」「高校生世代」の 4 つに区分し、小学生に関してはさらに放課後児童クラブ（学童保育）から取りまとめて送付された内容かどうかに基づいて分類した。小学生は学童保育経由で回収したか否かによって、顕著な差が見られた項目があったためである。なお、小学 1-3 年生を低学年、小学 4-6 年生を高学年に分類した。

・各カテゴリーに記載する自由回答は、なるべく多様な年齢と居住地、視点の入った回答を伝えられるように選択した。
・自由回答の分析や表紙のワードクラウドの作成には、KH Coder、R 言語のパッケージ「wordcloud2」を使用した。

4. アンケートを読むにあたって

子どもの声から何を読み取るのか
―子どもと共に、新型コロナウイルス感染症へ向き合うために―

安部芳絵
（工学院大学准教授/セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事）

はじめに

2020 年 3 月 17 日～31 日までに緊急子どもアンケートに寄せられた子どもたちの声は、1422 通にのぼった。ここから、何を読み取り、どのように活かすことができるのか。子どもの権利の視点から考える。

１．子どもと共に考えることを起点に

国連子どもの権利条約は、「子どもにとって一番よいことをしよう」という国同士の約束事である。1989 年に国連総会にて全会一致で採択され、日本政府は 1994 年に批准している。国連子どもの権利条約で重要視されているのは「子どもにとって一番よいこと（第 3 条　子どもの最善の利益）」を「子どもに聴いて子どもと共に（第 12 条　子どもの意見の尊重）」考えていくことである。今回のようなパンデミックに対してはどうか。

2020 年 4 月 8 日、国連子どもの権利委員会は「新型コロナ感染症（COVID-19）に関する声明」を発表した（p.69 参照）。声明では、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる子どもへの影響に懸念を表明し、このような公衆衛生上の脅威に対処する措置をとるにあたって子どもの権利を尊重することを促し、11 項目の措置を求めた。項目 10・11 では、子どもへの正確な情報の提供とパンデミックに関する意思決定プロセスに子どもたちの意見が聴かれ考慮される機会の提供を求めている。

これに対し日本では、子どもに対する説明はほとんどなされていない。「コロナはどこからきたのか子どもにも教えてほしい」（小１～小３・愛知県）、「なぜこんなことになったのかわかるように説明してほしい」（小６・北海道）、「感染したかもしれない時どうすればいいか教えてください」（小６・北海道）、－自分に関する重要な事であるにもかかわらず、情報が十分に伝わってこないもどかしさ、状況がよくわからないことへの不安や疑問、勝手に決められてしまったことへの怒りが伝わってくる。

緊急事態下では、子どもの参加の権利とその前提となる情報へのアクセス権が、たびたび後回しにされてきた。情報を伝えられず、意思決定から排除されることは、生きていく気力そのものを奪うことにつながる。子どもにわかりやすい形で正確な情報を伝える（今わかっていないことはわかっていない、と正直に伝える）ことに加え、おとなが気づかない視点を提供してくれる存在として、子どもの声を尊重し、感染症に共に向き合っていくためのヒントとするべきである。そのための声が、ここにある。

２．子どもたちの声・気持ちから

２－１．気持ちの受け皿をつくる

「お兄ちゃんと一緒でも留守番が怖い」（小２・神奈川県）、「友だちがこいしい」（小３・福島県）、「もとから心配性なのもあって、病気と死への恐怖を感じています」（中２・千葉県）、－本アンケートに寄せられた回答には子どもの気持ちがあふれている。

北海道の高校２年生は突然不安になって泣いたりすることが多くてしんどい状況を「心のコロナにかかってる」と表現した。恐怖や不安だけでなく、子どもたちの怒りも伝わってくる。「黒板にカウントダウンをしていた日数が、急に１になりました。先生が、泣きそうな顔で、次に会うのは卒業式です。と、朝の会に言った時、みんなが呆然として、泣きそうになりました。」「私たちの気持ちを一体誰がわかるんですか？カウントダウンが１になったあの日の私たちの喪失感を、誰が想像できるって言うんですか。」と社会や政治に対し怒りを露わにするコメントも少なくなかった（中３・都道府県無回答）。

まずは、恐怖や不安、怒りといったさまざまな感情を子どもたちが抱えていることを理解したい。その上で、池田氏の指摘（p.55）やチャイルドラインの取り組み（p.43）を参考にしつつ、家庭のみならずSNS等を活用し社会全体で子どもの気持ちの受け皿をつくっていくことが求められる。

２－２．教育的課題

「臨時休校になった学校となっていない学校で、同学年の間に学力の差が生まれることに関して、何らかの策を講じてほしい」（中１・埼玉県）のように、学びの保障を求める声が多くみられた。受験を控えて不安になっている声も多い。「失われた教育機会に見合っただけの成果（感染拡大をある程度防ぐこと）が得られたのか、専門家がしっかり調査して、教育機会が失われた子ども（私）にきちんと説明して欲しい。」（高２・鹿児島県）とあるように、感染終息後には「一斉休校」に対する評価検証も求められる。いずれも国が専門家と協力して取り組み、子どもの声も聴きながら、子どもが納得する形で説明する責任がある。学校再開に関しては、住友氏の原稿（p.54）も参考にして取り組みたい。

２－３．福祉的課題

感染拡大を防ぐためには家にいることが求められる。しかし、家が安心・安全とは限らないこともアンケートから見て取れる。「家で家族とぼーとしてる。じぶんもいらいら、家族とかママも仕事休みだからイライラしてる。お腹がすいてる」（小４・東京都）、「コロナで親が家にいて怒られることがおおい」（中２・東京都）、「家族がずっといるストレス、バイトができないお金が無い、家にいたくない」（高２・宮城県）－いままさに、家庭内のストレスがより弱い立場である子どもに向かいつつある。

福祉的課題に直面している子が多くいることを前提に、国はもちろん子どもに近い自治体が、地域の団体と協力しながら直接子どもたちに届くようにアウトリーチしていく必要がある。

２－４．学童保育と子どもの権利保障

「困っていること・心配なこと・気になっていること」で多かったカテゴリー「日常生活が送れていない・外出できない」に対し、学童保育経由以外の低学年は47.8%が、学童保育経由の低学年は24.7%がこれに当てはまった（p.20）。学童保育が子どもたちの日常を支えていること、学童保育で友だちと遊び楽しい時間を過ごせていることがうかがえる（p.38）。遊びは、子どもの人生そのものだ。多くの子どもたちにとって、友だちと一緒に遊ぶ機会が奪われている状況は学びを奪われるのと同じくらい深刻である。

学童保育は親の仕事を支える場である以上に、子どもの生活と遊びを保障する場である。現場の大変さは想像以上であろうが、学童保育があったからこそ、子どもたちは安心して楽しい日々を送っていた。親と子どもの権利を同時に支えている学童保育の現場に対し、アルコール消毒などの衛生用品の支給だけでなく、その意義の見直しと社会的地位の向上が望まれる。

２－５．表紙から読み取れること

アンケート結果として、1422 通すべてを紹介することはかなわなかった。それでは、引用されていない子どもたちの声はどうだったのだろうか。表紙に示したのは、すべての回答について、KH Coder、R 言語のパッケージ「wordcloud2」を用いて作成したワードクラウドである。単語の出現頻度が多いほど大きく表示されており大まかな傾向が把握できる。

子どもたちの気持ち・声に思いを馳せていただければと思う。

３．アンケートでは把握しきれなかった子どもたち

３－１．より困難な状況にある子どもの声

約 2 週間という短い期間に 1400 件以上集まったとはいえ、子どもすべてをカバーできたわけではない。本アンケートが子どもを代表しているわけではないし、把握しきれなかった子どもの方が多い。特に、より困難な状況にあると思われる子どもの声に、十分耳を傾けることができなかった。

外国とつながりのある子ども（p.42）、経済的に困難な状況にある子ども（p.45）等については、普段から子どもの声に耳を傾けてきた支援者たちの声が掲載されている。なお、難民や各種施設に拘禁されている子ども等は、支援者の声からも把握できていない。国連子どもの権利委員会による「新型コロナ感染症（COVID－19）に関する声明」を参考に、国が実態を把握し早急に対応をすべきことでもある。

３－２．国・各自治体・地域での調査

本アンケートからわかるのは、あくまで 3 月末までの子どもたちの声・気持ちである。本アンケートを例として、子どもに身近な各学校・地域・自治体・都道府県が「現在」の子どもの声を聴き、それらを新型コロナウイルス感染症対策とこれからの社会づくりに活かしていくことを期待する。

おわりに

子どもにかかわるおとなたちもゆらいでいる。子どもは、単なる保護の客体ではない。けれど、今は緊急事態だから…。正解のない日々のなかで、どうしたらよいのか迷っているとき、立ち返るべきは国連子どもの権利条約である。子どもにとって一番よいことを子どもに聴いて共に考える―子どもは、パンデミックという緊急事態下を共に生きてゆく仲間である。まずは本アンケートに記された１つ１つの声を受けとめて、身近な子どもたちの声を聴くことから始めてほしい。そして、子どもの声を単なる記録にとどめるのではなく、これからの世界を共に生きていくためにどう活かせるかを考えてゆきたい。

5. アンケート結果

＜設問ごとの回答数＞（空欄・「ない」などの回答を除く、有効回答 1422 件）

設問	回答数	割合
1．あなたは何年生ですか？（あてはまらないときは、「その他」に年齢を書いてください）	1414	99.4%
2．住んでいる都道府県を教えてください。	1410	99.2%
3．あなたは、学校が休みになってから、昼間どこで・だれと・なにをしてすごしていますか？（いくつでも）	1410	99.2%
4．学校が休みになってから、何かこまっていること、心配なことや気になっていることがあれば教えてください。（自分のこと、家族（かぞく）や友だち、まわりのことなどなんでも OK）	916	64.4%
5．学校がはじまるときや、就職・進学などあたらしい生活がはじまる前に、おとな（家族や先生、地域の人など）や社会、政府にしてほしいことがあれば教えてください。	712	50.1%
6．そのほか、どんなことでも思っていることを教えてください。	700	49.2%

<有効回答の基本情報>

学年・年齢	回答数	割合
小 1	245	17.2%
小 2	218	15.3%
小 3	186	13.1%
小 4	142	10.0%
小 5	80	5.6%
小 6	114	8.0%
中 1	87	6.1%
中 2	47	3.3%
中 3	100	7.0%
4 月から高校生	1	0.1%

学年・年齢	回答数	割合
15 歳	1	0.1%
高 1	76	5.3%
16 歳	1	0.1%
高 2	66	4.6%
高 3	42	3.0%
18 歳	2	0.1%
一浪	1	0.1%
大学 1 年	2	0.1%
その他	3	0.2%
無回答	8	0.6%
計	1422	100.0%

その他内訳：「小 2、中 2、高 2」1 件、「小 1・高 1」1 件、「小学 1～3 年生」1 件

都道府県	回答数	割合
北海道	37	2.6%
青森県	1	0.1%
岩手県	44	3.1%
宮城県	80	5.6%
秋田県	-	-
山形県	1	0.1%
福島県	484	34.0%
茨城県	11	0.8%
栃木県	1	0.1%
群馬県	4	0.3%
埼玉県	44	3.1%
千葉県	31	2.2%
東京都	141	9.9%
神奈川県	83	5.8%
新潟県	7	0.5%
富山県	-	-
石川県	1	0.1%
福井県	4	0.3%
山梨県	2	0.1%
長野県	27	1.9%
岐阜県	1	0.1%
静岡県	6	0.4%
愛知県	16	1.1%
三重県	1	0.1%
滋賀県	5	0.4%

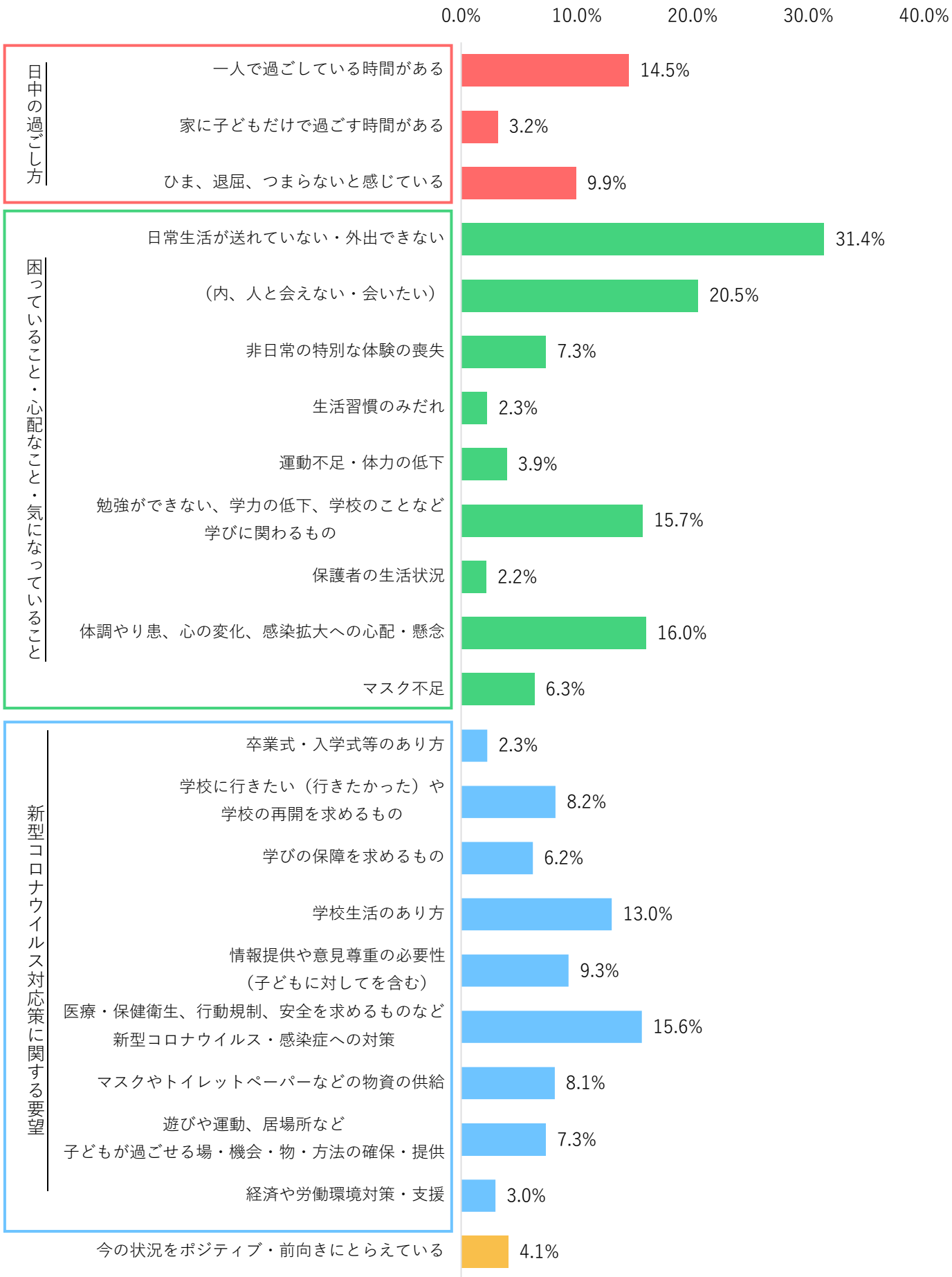
都道府県	回答数	割合
京都府	9	0.6%
大阪府	44	3.1%
兵庫県	26	1.8%
奈良県	2	0.1%
和歌山県	1	0.1%
鳥取県	1	0.1%
島根県	-	-
岡山県	42	3.0%
広島県	9	0.6%
山口県	1	0.1%
徳島県	-	-
香川県	-	-
愛媛県	-	-
高知県	2	0.1%
福岡県	9	0.6%
佐賀県	158	11.1%
長崎県	1	0.1%
熊本県	47	3.3%
大分県	1	0.1%
宮崎県	20	1.4%
鹿児島県	2	0.1%
沖縄県	1	0.1%
内緒	1	0.1%
日本	1	0.1%
無回答	12	0.8%
計	1422	100.0%

41 都道府県から回答があった。

<自由回答>

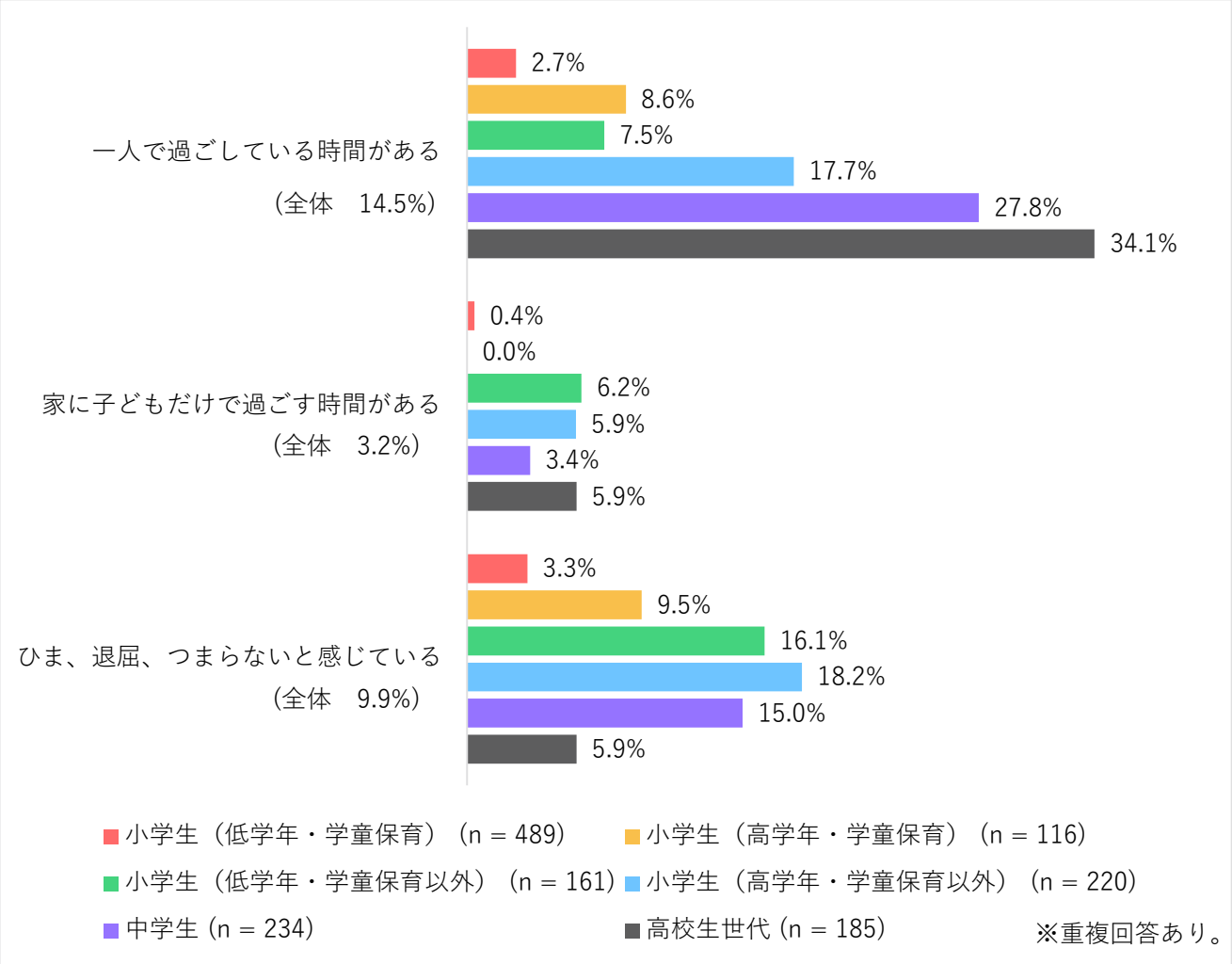
設問３～６の自由回答にはさまざまな回答が寄せられたが、回答内容や件数をふまえ、子どもの権利の観点から重要であると思われる内容を大カテゴリー・小カテゴリーとして設定した。

※割合の分母は 1422 件。1 件の回答から複数のカテゴリーに重複して分類した回答がある。


0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
日中の過ごし方
一人で過ごしている時間がある
14.5%
家に子どもだけで過ごす時間がある
3.2%
ひま、退屈、つまらないと感じている
9.9%
困っていること・心配なこと・気になっていること
日常生活が送れていない・外出できない
31.4%
（内、人と会えない・会いたい）
20.5%
非日常の特別な体験の喪失
7.3%
生活習慣のみだれ
2.3%
運動不足・体力の低下
3.9%
勉強ができない、学力の低下、学校のことなど
学びに関わるもの
15.7%
保護者の生活状況
2.2%
体調やり患、心の変化、感染拡大への心配・懸念
16.0%
マスク不足
6.3%
新型コロナウイルス対応策に関する要望
卒業式・入学式等のあり方
2.3%
学校に行きたい（行きたかった）や
学校の再開を求めるもの
8.2%
学びの保障を求めるもの
6.2%
学校生活のあり方
13.0%
情報提供や意見尊重の必要性
（子どもに対してを含む）
9.3%
医療・保健衛生、行動規制、安全を求めるものなど
新型コロナウイルス・感染症への対策
15.6%
マスクやトイレットペーパーなどの物資の供給
8.1%
遊びや運動、居場所など
子どもが過ごせる場・機会・物・方法の確保・提供
7.3%
経済や労働環境対策・支援
3.0%
今の状況をポジティブ・前向きにとらえている
4.1%

＜3 つの大カテゴリーごとの子どもたちの声＞

【大カテゴリー1】日中の過ごし方



子どもの権利の観点から、特に留意すべき過ごし方を 3 つの小カテゴリーとして上記グラフのとおり分類した。それを、小学生（低学年）、小学生（高学年）、中学生、高校生世代ごとに集計し、小学生に関してはさらに学童保育から取りまとめて送付された回答かどうかに基づいて分類した。これよりあとの各カテゴリーでも、同様の分類で集計をした。例えば、「一人で過ごしている時間がある」の小学生を見ると、低学年・高学年ともに学童保育から取りまとめられた回答ではその割合はそうではない場合と比べて半分以下だった。また、学童保育から回収した以外の小学生は、低学年・高学年ともに「家に子どもだけで過ごす時間がある」子どもが約 6%であった。p.13 で安部芳絵氏が指摘しているように、休校中だった 3 月時において、学童保育が子どもたちの過ごし方を保障していた側面がうかがえる。これ以外の過ごし方や学年ごとの傾向については、p.64 でまとめたのでそちらも参照されたい。

- **一人で過ごす時間がある子どもたち　206 件（14.5%）**
  - ・家でるすばん、犬が一緒にいてくれてる。母ちゃんが帰ってくるまでひますぎる。（小 4・大阪府）
  - ・一人でお留守番しているときに、ゲームをしても楽しくない。退屈。（小 4・東京都）
  - ・家で 1 人でゲームをしたり、卒業になるまでカレンダーに×をつけて卒業の日を待って過ごしていた。（小 6・宮城県）
  - ・ぼっちで動画を見ています。（中 1・東京都）
  - ・ひとりで家にいる。（中 3・茨城県）
  - ・家で一人でごろごろしてスマホしてます。（高 1・北海道）
  - ・自宅 1 人 携帯と課題に向き合っています。（高 1・千葉県）
  - ・自宅　1 人　勉強　部活の作業　インターネットなど。（高 2・和歌山県）

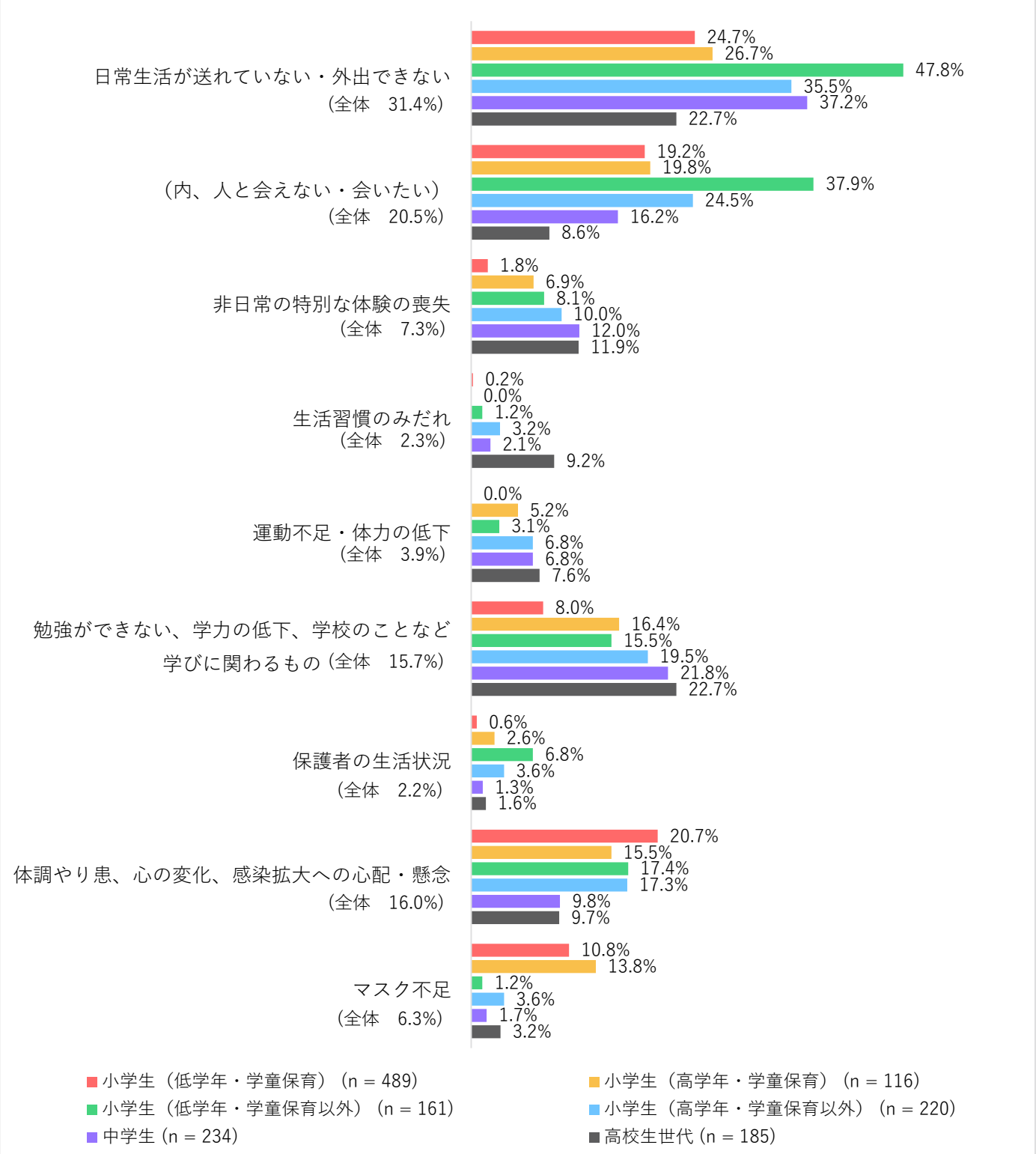
- **家に子どもだけで過ごす時間がある子どもたち　45 件（3.2%）**
  - ・お兄ちゃんと一緒でも留守番が怖い。（小 2・神奈川県）
  - ・家で留守番一人で。（小 3・愛知県）
  - ・お母さんが仕事に行くので、6 時まで子どもだけで留守番をしているので、怖い。（小 5・埼玉県）
  - ・月曜日から金曜日はお母さん達は仕事でいないので、家に泥棒が来たりなど事件がおきないようにして欲しい。（小 6・宮崎県）
  - ・妹と家で留守番をしています。勉強もあまり手につかず、どちらかというと遊んでいたりゴロゴロしていることが多いです。（中 3・佐賀県）

- **ひま、退屈、つまらないと感じている子どもたち　141 件（9.9%）**
  - ・家の生活はもう飽きました。図書館も閉まって、家でやることがなかった。学校の本を貸してほしかった。楽しみにしていた行事が全部なくなって、毎日退屈だった。（小 1・大阪府）
  - ・ひまです。どうすれば友達と遊べるか、分からない。（小 4・大阪府）
  - ・毎日がひまで退屈です。（小 5・佐賀県）
  - ・すごく暇だからどうすればいいか困る。（小 6・北海道）
  - ・することがない。（中 2・佐賀県）
  - ・何をすればいいのか、分からない。（中 3・福島県）
  - ・とにかく暇で仕方がない。（高 1・宮城県）
  - ・暇すぎること。（高 2・東京都）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

【大カテゴリー2】困っていること・心配なこと・気になっていること

アンケート集計で、「困っていること・心配なこと・気になっていること」の 9 つの小カテゴリーに該当する回答は、885 件（62.2%）あった。※重複回答あり



「日常生活が送れていない・外出できない」は、学童保育経由ではない小学生（低学年）で最も多く約 5 割となった。卒業式や試合、イベントなど「非日常の体験の喪失」は中高生世代の 1 割があげた。「生活習慣の乱れ」は高校生世代が最も多く、約 10 人に 1 人（9.2%）が記述した。「運動不足」「学力の低下」は、年齢が上がるほど懸念する割合が増えた。「体調やり患、心の変化、感染拡大への心配」は年齢が小さいほどに割合が高かった。「マスクの不足」は学童保育経由で回収した回答に顕著に見られた。

- **日常生活が送れていない・外出できない　446 件（31.4%）**
  - ・学校での預かりがあっても、お友達と遠く離れて座り、ランチも一人で黙々と食べ、話したらダメ、一緒に遊んだらダメ、はとてもつらいといっていました。（小 1・千葉県）[2]
  - ・外に出られないためストレスが溜まっている。テレビ、ゲーム以外やることがない。（小 1・神奈川県）
  - ・毎日学童が疲れる。（小 1・福島県）
  - ・給食がない。（小 2・東京都）
  - ・ともだちと遊びたいけど遊んでいいのか分からない。お母さんが仕事の時家にいない。（小 2・兵庫県）
  - ・友達と遊びたい。習い事に行きたい。（小 2・福岡県）
  - ・学校すきなのに行けないから、モヤモヤする。何もしたくなくなる。スイミングと体操教室も休みになって、友達にあえなくてさびしい。（小 3・大阪府）
  - ・ともだちといっしょにぜんりょくであそびたい。（小 3・神奈川県）
  - ・ストレスがたまらないか心配。体力が落ちないか心配。外で遊んでいるときに、遊んでいることを怒られないか心配。学校の友達や先生に会えなくてさみしい。図書館などで本が借りられなくて困っている。友達としばらく会っていないので、学校が始まってから、友達とうまく付き合えるか心配。（小 3・東京都）
  - ・図書館が閉まっていて、本が借りられなくて困る。（小 3・栃木県）
  - ・外に遊びにいけないので、つまらないです。校庭を開放してほしいです。（小 3・広島県）
  - ・クラスや学年の友だちとドッチボールで遊べないのがさびしい。（小 4・埼玉県）
  - ・外に出て遊ぶとお年寄りに怒られる。（小 6・東京都）
  - ・学校を休校にして欲しくなかった。暇だった。最悪だった学校の先生もこの休校がいきなりで、全く賛成でないようでした。（小 6・長野県）
  - ・長い間楽しみにしていた部活動が全て無くなってしまい、家にいてもすることがなく、友達ともあまり会えないのですごく疲れています。（中 1・神奈川県）
  - ・うちは親が友達と直接会うことは極力しないように言われているが普通に遊んでいる子がいて、それをインスタとかで見ると学校が始まったら遊べた子たちだけ仲良くなっていて自分が孤独を感じ

[2] 速報版では、本回答を「東京都」からの回答と紹介しましたが、千葉県の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

るのじゃ無いかと不安。私の家族のように「感染を止めるためには収束するまで外出自粛」に賛成している家族も多いと思う。（中 1・神奈川県）
・コロナが出ていないのに休校がいやだ。勉強や部活が、学校が再開されてからついていけるか心配。生活リズムがくずれて心配。（中 1・岡山県）
・これから学校始まるのに、休校決定時よりも感染人数が増えてるので、本当に始まるのか否か。どうしようもないことであったが、いきなり「休み」と言われ、何の予定もなく暇となり、外にも中々遊びに行けず、それを 30 日近くやれ、となって完全に人生の貴重な時間を潰されてる。（中 2・神奈川県）
・はらへった。（中 2・福島県）
・「外で子どもが遊んでいる」というクレームが学校に入っているらしい。だが、少なくとも私は家に籠ることは辛い。公園で遊ぶくらい許して欲しいと思う。（中 2・大阪府）
・お昼ご飯どうするか、お金かかる。（中 3・長野県）
・インスタで遊んでる様子を見て、私も遊びに行きたいけど、大丈夫なのか心配（中 3・東京都）
・子ども達だけで集まって、少し話し込んでいるだけで、パトロールの方に注意され、結局 自宅で過ごすしかない状況です。（中 3・宮城県）
・ずっと外であそべないのかと思っていて、かなしいです。（中 3・熊本県）
・病院に行きづらくなった。（高 1・岩手県）
・外に出られないストレスがとても多い。（高 1・宮城県）
・せっかくだから本を読もうと思っても、図書館が全て閉館しているので本が借りられない。身体を動かしたいと思っても、区の体育館は閉鎖され、されていないところでも未成年は借りられないなど、使えるところが全くない。仕方ないのでお金のかかるボーリングなどに行くくらいしかなく、とにかく居場所がない。小学生は児童館があるが、中学・高校生はどこにも居場所がない。（高 2・東京都）
・家族がずっといるストレス、バイトができないお金が無い、家にいたくない。（高 2・宮城県）
・アルバイトの時間がけずられていること。（高 2・大阪府）

➢ **人と会えない・会いたい　291 件（20.5%）**

・みんなといつ会えるのか心配です。（小 1・兵庫県）
・友だちがこいしい。（小 3・福島県）
・学童に通っていない友達と学校がないから会えなくて悲しい。（小 4・福島県）
・友達と会う回数がとても少なくなって連絡があまりとれなくなってしまった。それが 1 番悩み。月に 1 度でもいいから友達と遊べる機会が欲しい。（小 6・千葉県）
・卒業にも関わらず、友達と会えないことがさみしい。（小 6・高知県）
・友達に会えなくて寂しい休校なんて楽しくない楽しかったクラスがこんな形で終わるのがやだ。（中 1・佐賀県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・家が遠い友達や先生と会えないこと。（中 2・北海道）
・卒業シーズンに友達と会えなくなり寂しい気持ちでいっぱいです。（中 3・長野県）
・友達と話す機会が減ってしまった。（高 1・神奈川県）
・友達や先生と会えなくて寂しいです。（高 2・埼玉県）

- **非日常の特別な体験の喪失　104 件（7.3%）**

・こんな形で 6 年生と別れたくなかった。（小 4・東京都）
・運動会はどうなるのですか？（小 5・福島県）
・6 年なので、卒業式の練習が、ほとんどできないまま、ぶっつけ本番で、卒業式をしないといけなくなった。卒業までのお別れスポーツ会や、国立天文台へのバスで行く社会科見学も、なくなってしまった。（小 6・東京都）
・吹奏楽部のコンクールに向けての練習ができない。（中 1・神奈川県）
・5 月にある修学旅行がどうなるのか。（中 2・宮城県）
・卒業式までの行事(三年生を送る会、スポーツ大会、クラスお別れ会など)がなくなって、寂しい。（中 3・神奈川県）
・卒業までの大事な時間を取られたのは残念。きちんと感謝を伝えられなかったから。（中 3・長野県）
・卒業式が完全な形でできなかったのが残念です。練習時間も取れず、合唱等もきちんと仕上がりませんでした。後輩との最後の交流の場もなくなり、同級生や先生と話す時間も思うように取れませんでした。このまま高校の入学式まで遅れてしまうかもしれないと思うととても心配です。（中 3・宮城県）
・ゲームセンターもカラオケもディズニーも受験が終わったらしたかった事が全部出来なくなって正直耐えられません。もちろん人混みに行ってはいけないというのもわかっています。しかし、人混みではない公園で友達とバトミントンしていたらおじさんに「君たちみたいな子供たちが外出するからコロナが広まるんだ」と言われました。しかしパチンコ屋にたくさんの人、高齢者が足を運んでいます。コロナが広まるまでは子供はゲームなどをせず外で遊ぶべきと教えられてきたのに今は家にこもってろというのが理解出来ません。卒業式は規模縮小し私の所属している吹奏楽部の定期演奏会は中止…もちろん我慢して受け止めなきゃいけないと初めは思っていましたが周りの大人の理不尽さなど我慢することが多すぎてどうしたらいいのか分かりません。私の友達も公園で遊んでいたら近所の人に「コロナの恐ろしさを全くわかってない。家から出るな」と言われたそうです。運動せずに家でダラダラ過ごして体を弱くすればいいのでしょうか。父と姉は毎日、駅や電車で多くの人と接触しています。もし家族がコロナに感染した時に運動不足やストレスで弱くなっている体でどう抵抗すればいいんですかね。この気持ちをわかってくれるのは同級生だけで親も周りの大人も誰も理解してくれません。もっと理解して貰えるように子供の声を大人たちに伝えて欲しいです。（中 3・神奈川県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・私は、コロナウイルスのせいで卒業式と、友人と一緒に過ごすはずだった残りの時間を失いました。受験の直前なのに、これからどうなるんだろうと思いました。黒板にカウントダウンをしていた日数が、急に 1 になりました。先生が、泣きそうな顔で、次に会うのは卒業式です。と、朝の会に言った時、みんなが呆然として、泣きそうになりました。泣いている子もいました。（中略）辛くて、その日の夜に沢山泣きました。（中略）それなのに、大人たちは仕方がない。仕方がないって、何が仕方ないんですか？仕方なくなんてないでしょう。私たちの時間を奪ったのは、紛れもなく、間接的にでも貴方達でしょう。貴方たちが選んだ代表たちが、こんな事になるまで目をそらし続けたんじゃないんですか？遊びに出掛けた大人たちが、感染を広げたんじゃないんですか？私たちが、何をしたんですか？私たちの何が悪かったんですか？何で貴方たちが平気だなんて決めるんですか。平気なわけないじゃん。（中略）私たちだってわかってますよ。感染を広げるリスクがあることは避けないといけないし、私たちの命を守るためには、その選択も必要だったということも。だけど、その為に犠牲になった人たちのことを、仕方ないだけで済ませることなんて、あっていいんですか？私は、思い出話になりますから、なんて言って笑う大人を絶対に許さない。傷は傷です。奪われたものは奪われたものだ。今の私は、笑い話になる、なんてそうは思えない。（中略）笑い話になる未来を見ないで、今の私たちの心の傷のことも考えてください。もう、私たちに関して何も言わないでください。私たちをだしに使って物事を発言しないで。私たちの気持ちを一体誰がわかるんですか？カウントダウンが 1 になったあの日の私たちの喪失感を、誰が想像できるって言うんですか。（後略）（中 3・都道府県無回答）
・担任の先生に感謝の手紙などを渡せず終わってしまったこと。（高 1・愛知県）

- **生活習慣のみだれ　32 件（2.3%）**

・遊びに行きたいけど子ども会のイベントなど無くなり、楽しみにしていたのに残念。夜おそくまで起きていてしまう。生活リズムが違う。（小 2・宮城県）
・よるねむれない。（小 2・佐賀県）
・よく昼寝をしてしまうので、生活リズムが崩れていくことが心配です。（小 5・茨城県）
・やる事がなく遅寝遅起になったりと生活リズムが崩れた。（高 1・北海道）
・朝起きれるか。（高 2・福岡県）
・友達と会えないのでラインや電話で話ししていますが　やはり朝学校に行く習慣があるため体内時計がおかしくなっています。（高 2・大阪府）
・スマホを使う時間が増え、怠惰な生活をしてしまう。（高 2・東京都）
・生活リズムが乱れて 1 日だるくてなにもできない、3 食コンビニで飽きた、身体の調子が悪い、ラインでみんなイライラしてる気がしてだるい。コロナで休みになったときはうれしかったけど、1 週間くらいでいつもよりだるくなってなにもできなくなってて困ってる。試験の勉強とかもできなくて、不登校になったらどうしようってこわくなってる。どうやって学校モードに戻すのかわからない。この 1 ヶ月近く、突然不安になって泣いたりすることが多くてしんどい。病気かも。でも、

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

みんな心のコロナにかかってるってラインでいってるから、みんなもそうなのかも。（高 2・北海道）

- **運動不足・体力の低下　56 件（3.9%）**
  - ・家だと体を動かすことが、あまりできない。（小 2・東京都）
  - ・外に出てあまり遊ばないので、運動不足になるのが心配です。（小 3・神奈川県）
  - ・学校が休みになって、体育がやれなくなったから、しっかり運動できるようにしたいです。（小 4・福島県）
  - ・運動不足で太ってしまう。（小 6・宮城県）
  - ・身体が鈍ってしまう。（中 1・東京都）
  - ・圧倒的運動不足。（中 2・宮城県）
  - ・ストレスがたまる。部活が停止になって、体力が落ちたり、技術が衰えそうで心配。なかなか時間をうまく使えず、生活習慣が乱れていくことが気になる。（高 1・熊本県）
  - ・部活ができないから運動したりない気がする。（高 1・福島県）
  - ・普通に外に遊びに行けなくなったし部活が出来なくて体力不足です（高 2・岩手県）
  - ・体力と身体能力の低下。テレビやパソコンを一日中みて過ごすしかないので、視力の低下にもなる。一日中家に閉じこもっているのでストレス。（中 3・神奈川県）

- **勉強ができない、学力の低下、学校のことなど学びに関わるもの　223 件（15.7%）**
  - ・宿題をわからない時、どうしたらいいかわからない。（小 2・京都府）
  - ・学校からの宿題が国語と算数ばかり(理科や社会もやりたい)。（小 3・愛知県）
  - ・宿題が多すぎる。（小 3・栃木県）
  - ・3 年生の終わらなかった勉強はどうなるの？（小 3・茨城県）
  - ・宿題が多いし、土日も宿題をするのか分からなくてこまります。（小 3・広島県）
  - ・学力がだんだん下がっている。（小 4・福島県）
  - ・学校で五年のまだ教えてもらってない勉強がわからない。（小 5・岡山県）
  - ・勉強が追いつかなくなる。（小 6・東京都）
  - ・いつもは学校の先生が勉強を教えてくれたり、中学校にむけての準備なども教えてくれるけど、中学校に行く 6 年生にとっては、これからの中学校生活が計画的に出来るのかが心配です。いつもは宿題が 1 日ごとに計画してあるけど、学校が休みでまとめて沢山出されて、まだ教えてもらっていなくてわからない問題があるけれど、昼間はお母さん達がいないので教えてもらえなくて困っている。（小 6・宮崎県）
  - ・1 ヶ月間勉強ができなくなってきている。（中 1・宮城県）
  - ・期末テストが出来なかったので成績が気になります。（中 1・東京都）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・他の人はどんな家庭学習の方法をとっているのか。中学 2 年の復習を中心に家庭学習をしているが、それが良いのかどうなのかわからなく不安に感じる。（中 2・宮城県）
・親が勉強しないからイライラしている。（中 2・東京都）
・勉強をしなくなってしまった。（中 3・長野県）
・勉強が捗らないこと。（高 1・愛知県）
・受験に向けた活動ができていない。（高 2・北海道）
・来年度は普通に学校生活を送れるのか心配。進路活動が始まるから気になっている。最近、頭が痛くなったりイライラしたり、ストレスだと実感している。リラックス方法を試したりして残りの休みを過ごしたい。（高 2・岩手県）
・来年受験なので、勉強時間の差をみんなにつけられてしまっているのでは、遅れを取ってしまう不安。（高 2・宮城県）
・学校が開始してからの勉強スピード。また、今年に控えている大学受験への影響。（高 2・東京都）
・学校が休みになったことは集団感染を避けるためのいい判断だと思うが、外出自粛ムードである今生徒が自宅でも何か学びたくなるきっかけを学校側は作る方がいいのではと思う。（高 3・東京都）
・通っている学校によって課題や宿題の量がバラバラで義務教育の中学校や小学校などでも教育内容に差が出てしまうこと。（高 3・宮城県）
・受験。学校で自習したい。切実に勉強する環境が欲しい。学校に行きたい。授業を受けたい。（高 3・北海道）

➢ **保護者の生活状況に対するもの　31 件（2.2%）**

・親が職場で新型コロナウイルスをもらわないか心配。（小 1・青森県）
・お母さんが仕事休めないからつまらない。（小 2・宮城県）
・僕たちは休みでも、母や父が仕事してる。（小 2・愛知県）
・家で家族とぼーとしてる。じぶんもいらいら、家族とかママも仕事休みだからイライラしてる。お腹がすいてる。（小 4・東京都）
・お父さんもお母さんも仕事だから寂しくなる。（小 6・大阪府）
・パパのお仕事が少なくなったこと。（小 6・宮城県）
・パパは平日おしごとなのに家にいるのに、あそんでくれない。（小 1・神奈川県）
・ままがわる口ゆってこまる。（ストレスがたまる。）（小 3・福島県）
・コロナで親が家にいて怒られることがおおい。（中 2・東京都）
・母に持病があるので学校が始まってしまうことに不安がある。（中 3・神奈川県）
・保護者の体調が悪くなり仕事を休みがち。校納金の納付が心配。（高 1・宮城県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・家族といる時間が増え、みんな不満が溜まっているのかあまり雰囲気が良くない。（高 2・東京都）

- **体調やり患、心の変化、感染拡大への心配・懸念　227 件（16.0%）**

・夏になったらコロナウイルスがひろまらないようになったらいいなと思います。（小 2・埼玉県）
・コロナになったら死ぬのが怖い。（小 2・愛知県）
・コロナウイルスがきになって外に出る事が怖い。（小 2・宮崎県）
・ストレスがたまってすごくたいへんなことになるんです。（小 3・福島県）
・みんなマスクをしてない。（小 3・佐賀県）
・コロナウイルスにかかって死んじゃう事がこわいです。日本が大変な事になっていてこわいです。（小 4・神奈川県）
・これから、社会がどうなるのか。（小 4・埼玉県）
・もし学校の人が 1 人でも感染したらどうなるのか。（小 5・兵庫県）
・笑う事が減った。（小 5・兵庫県）
・あえないともだちがコロナウイルスにかからないかしんぱい。（中 1・福島県）
・もとから心配性なのもあって、病気と死への恐怖を感じています。（中 2・千葉県）
・対話の機会が少なくなり、感情が不安定。（中 3・埼玉県）
・休みの間行動を自粛せずに遊んでいる友達に休み明けに会うのが怖いです。（中 3・大阪府）
・コロナの臨時休校が終わった後、学校に行くためにいつも使っている電車に乗るのが怖い。あんな密閉された空間だともし誰かが感染していたら、自分も感染する確率が高くなる。（高 1・兵庫県）
・いつになったらコロナがおさまるのか。（高 1・福岡県）
・悪夢を見るようになった。（高 1・東京都）
・テレビとか国とかに、色々言われてるけど、外に出れば人はいるしあせってないから大丈夫か心配。（高 2・新潟県）
・知り合いがコロナにかかってないか、心配。（高 3・神奈川県）

- **マスク不足　90 件（6.3%）**

・パパがふだん、マスクしてなくて、きゅうに会社でしないといけないことになって、ママがパパのマスクがなくてこまっている。（小 3・佐賀県）
・マスクがみんなかっちゃってなくなっちゃうからこまっています。けどもっとこまっている人がいるのかな。（小 3・福島県）
・マスクが手に入らなくて、花粉症もひどいから困る。（小 5・東京都）
・小さい子やお年寄りのマスクが無いのが心配です。（高 2・北海道）
・アルコール消毒、マスクなどが不足し、街や外を出歩くのが不安。（高 3・福島県）

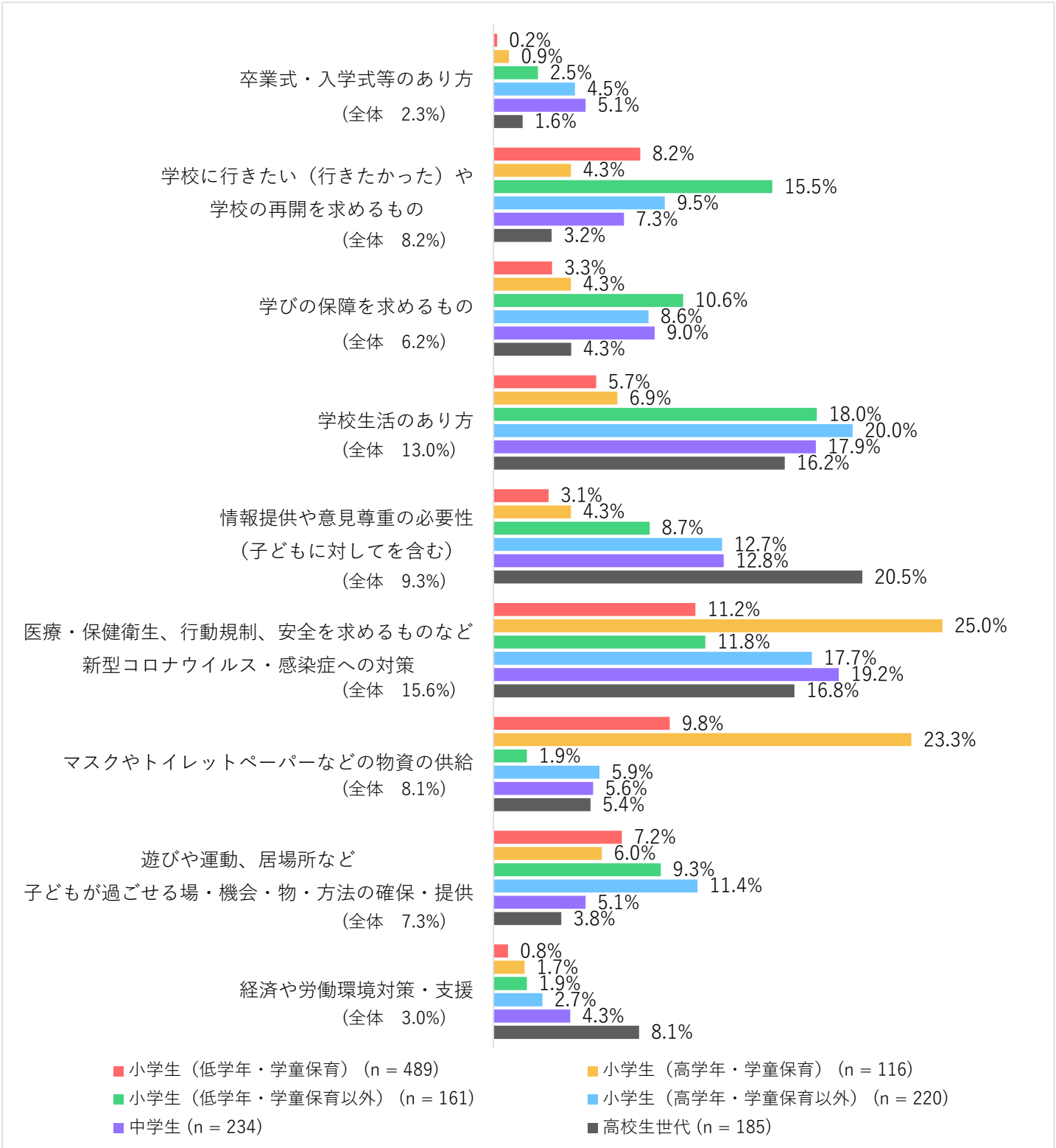
※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

- **その他困りごと・心配なこと**
  - ・コロナウイルスの中でデマがあるのでちゅういをしてほしいと思う。（小 2・福島県）
  - ・思春期を迎えている小中高生達がずっと閉じこもってる、という環境で、病んだり。引きこもりになってしまう。という恐れ。自分の家庭内では無いが、その他の家庭で虐待や、食の心配。（中 1・東京都）
  - ・ギガがなくなりそう。（高 1・宮城県）
  - ・スマホをやっていないので自由にネットに繋がれない。（中 2・神奈川県）
  - ・コロナもそうだが日本の景気が非常に心配だ。今まで当たり前のように買ってこれた物が買えなくなったり給料が下がったりすることで生活に悪影響を及ぼすことを懸念している。（中 3・埼玉県）
  - ・お金。（高 2・埼玉県）
  - ・お金がない。（高 3・熊本県）
  - ・小学生などは学校がなくなった事で給食が無くなり、栄養摂取状態の不良が心配である。（中略）栄養補給として大きな役割を担っていた学校給食による食事が無くなったことは成長期真っ只中の子供達の成長に少なからず影響が出るような気がする。（学年・都道府県無回答）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

【大カテゴリー3】新型コロナウイルス対応策に関する要望

今回のアンケートでは、新型コロナウイルス対応に関する対策について、子どもたちの回答のうち 757 件（全体の 53.2%）が、下記小カテゴリーに該当する要望にかかわるものだった。※重複回答あり。



「学校に行きたい」は、学童保育経由ではない小学生（低学年）が最も多く、15.5%であった。友だちや先生と会えない状況が継続していることから、記述された割合が多かったと推察される。「学校生活のあり方」は、学童保育経由ではない小学生（高学年）のうち 2 割が記述した。詳細な理由は尋ねていないが、回答の傾向をふまえると家庭のみでの学習が多く、宿題や未習分の学習内容への不安が見られる。

「情報提供や意見尊重の必要性」は、年齢が上がるにつれて要望する割合が高くなり、高校生世代では 2 割を超えた。具体的な政策について言及する回答も少なくなかった。「経済や労働環境対策・支援」を求める割合も、8.1%とすべての年齢を通じて高校生世代が最も高かった。

「新型コロナウイルス・感染症への対策」と「マスクやトイレットペーパーなど物資の供給」では、学童保育経由で回収した小学生（高学年）の割合が最も高く、それぞれ 25.0%、23.3%であった。これは、学童保育においてマスクの着用や手洗い、消毒の徹底などの感染症対策がとられていることが背景にあると考えられる。

- **卒業式・入学式等のあり方　32 件（2.3%）**
  - ・卒業式の 6 年生の様子を知りたかったな。ビデオとかあるといい。（小 3・滋賀県）
  - ・卒業式が縮小するならせめて同窓会をしてほしい。（小 6・東京都）
  - ・４月から学校に行きたいし、入学式とか修学旅行とか、楽しみにしている行事がなくなってほしくない。（小 6・岡山県）
  - ・特に私たち卒業生は、友達との大切な残り少ない時間がいきなりゼロになってしまったので、その時間を返して欲しいです。いきなりこんなことになり、友達や先生との最後の時間も失われたのがすごく残念ですが、いつかこの休みや、このことが笑い話に出来ることが来る日を待っています。早く今までのようにみんなが健康で怯えることなく生活できる社会に戻って欲しいです。（中 3・長野県）
  - ・一斉休校の対策は感染防止には適した対策だったかもしれませんが、卒業生の気持ちになって考えることもして欲しかったです。子どもよりも、大人(社会人の方)への対策をするべきだと思いました。（中 3・長野県）
  - ・短くても LIVE でもいいから入学式など一生に 1 度しかないイベントはしっかりやって欲しい。（高 3・鳥取県）

- **学校に行きたい（行きたかった）や学校の再開を求めるもの　116 件（8.2%）**
  - ・はやくがっこうにいきたい。（小 1・佐賀県）
  - ・早くみんなと学校に行きたい。（小 2・愛知県）
  - ・はやく学校をさいかいしてほしいです。（小 3・福島県）
  - ・早く普通に学校行って給食食べたい。（小 4・千葉県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・学校に行くだけで、とても明るくなれます。友達に相談することで気持ちが楽になります。なのに、学校にも行けず、外にもあまり出れず、習い事も全てなくなってもう、ストレスももう限界です…。（小 6・兵庫県）
・学校が休みだから、日中が暇になる日があるから、学校が早く始まらないかなと思う。（中 1・佐賀県）
・早く学校が始まって欲しい。（高 1・岩手県）

➢ **学びの保障を求めるもの　88 件（6.2%）**

・休校になり、学べない状態なため、各家庭に問題集など配って欲しいのが願い。全国には同様な人はたくさんいると思うんです。お店では品薄または在庫がない様なので。（小 2・福島県）
・1 日でもいいから、学校に行きたい。体育を特にみんなとしたい。（小 3・兵庫県）
・自宅でもパソコンでクラスの授業を受けれるようにしてほしい。給食を仕出しで取りに行けるようにして欲しかった。（小 3・東京都）
・急にいっぱい宿題が出て大変だった。わからないところがあったらどうすればいいかわからなくて困ったのでなんとかしてください。（小 4・長野県）
・簡単にでも、前の学年の振り返りテストをしてほしいです。（小 5・新潟県）
・遅れた分の勉強を無料で教えて欲しい。（小 6・宮城県）
・臨時休校になった学校となっていない学校で、同学年の間に学力の差が生まれることに関して、何らかの策を講じてほしい。（中 1・埼玉県）
・新しく多様な学びの出来る環境に変えて欲しい。（中 1・東京都）
・地方でもいいので、テレビ授業があるといい！前の学年の出来なかった授業をもう 1 度してほしい！プリント集や問題集だけじゃわかりません！あと、前学年（1 年間）の総復習の時間を設けてほしい！（中 1・熊本県）
・静かに勉強できるスペースがほしい。（中 3・宮城県）
・国の判断によって子どもの大切な教育機会が失われるのに対して教育を補填するための策を国が出さないまま、急に教育が受けられなくなったことに、違和感と危機感をとても感じています。「急に言われても平日の日中、子どもを家でみれない」という保護者に対しては、休校要請を出した翌日に説明があり学童などが(応急的に)対応しています。しかし、子どもの教育機会が失われたことについては、国からの補填も説明も無いままで、また議論されている様子もないことは絶対におかしいことだと思います。子どもの権利を、子どものことを国は考えているのか心配です。学習機会の補填が(新規獲得のためのマーケティングや善意によって)無料公開された教材頼みなのも絶対におかしいと思います。国は、経済だけでなく国民の権利を守ることに対しても、もっと真摯に対応するべきだと思います。（高 2・鹿児島県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

- **学校生活のあり方　185 件（13.0%）**
  - ・おうちにずっといないといけないから、小さい子向けの家で楽しめるもの、事を提供してほしい。ネットビデオとかで授業出来たら良いな。（小 2・兵庫県）
  - ・大荷物がいやだ。迎えにきてほしい。（小 3・東京都）
  - ・体力が落ちていそうなので、体育を多くしてほしい。体育の中でも、走ったりして体力がつくことをしたい。（小 3・東京都）
  - ・いきなり宿題を出さないでほしい。（小 3・熊本県）
  - ・宿題をしていなくても怒らないで欲しいです。（小 3・宮崎県）
  - ・3 学期にできなかった分の授業があったり、その分ギュウギュウ詰めの授業になるのは困る。（小 3・滋賀県）
  - ・遊ぶ時間を作ってほしい。いきなりこれまでたまった勉強をすると思うとしんどい。（小 4・大阪府）
  - ・新学期の授業は 4 年 の復習から分かりやすくゆっくり教えて欲しい。夏休みがどうなるのか、短くなれば嬉しくない。（小 4・兵庫県）
  - ・通学路や学校を新型コロナウイルスに感染しないよう安全にしてほしい。（小 4・埼玉県）
  - ・もう一回、まえの先生やクラスに集まって、お楽しみ会みたいなことなどをしたい。（小 4・埼玉県）
  - ・夏休み、冬休みが短くなる可能性があること。（小 5・北海道）
  - ・学校でのけんこうかんさつ時にマスクをつけているかねつは、だいじょうぶかをきくことが大切なのかな。（小 5・福島県）
  - ・コロナだけではなくいろんな病原菌の影響を受けない生活をしたい、いじめや虐待の起こらない環境にしてほしい。（小 5・兵庫県）
  - ・学校で授業が出来ない代わりに、インターネットで、友達や先生とビデオ交流の様なことができると良いなと思っています。（小 6・千葉県）
  - ・今回の様な急な休校は止めてほしい。（小 6・滋賀県）
  - ・木曜日に発表して、次の月曜日から休校はいくらなんでも早すぎ。2 週間の猶予はほしかった。2 週間後に休校します、といってその間に検査体制整えるなどやるべきことをしてほしい。（小 6・福井県）
  - ・学校が始まる前に、１日でも学校に行きたい。そしたら、その１日を、皆すっごく大切に過ごすことが出来ると思う。（小 6・埼玉県）
  - ・入学後、安心して通学や学校生活がおくれるように、いろんな援助を考えてほしい。（小 6・高知県）
  - ・友達との会話を支えてくれるサポーター、文房具や学校へのなにかを支給。（中 1・東京都）
  - ・新学期の初めに、急に授業を始めるのではなく、1 日猶予日を設けてほしい。（中 1・宮城県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・いきなり学校が始まったからといって、テストや勉強をつめこんだりせず、1 人 1 人生徒の気持ちも考え行動してほしい。（中 1・東京都）
・学校の始まる時間を遅くする。（中 3・東京都）
・授業の補充をするなら早めに決定、連絡してほしい。（中 3・大阪府）
・休んだ分の授業などをどのように補填するつもりか教えて欲しいです。（高 1・鹿児島県）
・授業の穴を埋めるために土曜登校は納得できるが、夏休み返上はしないでほしい。（高 1・新潟県）
・いっきに、やらなくてはいけないことを増やさないでほしい（例えば、部活動を長時間行う…など）。休み明けの学校の在り方を大人たちにもっと考えて欲しい。（高 1・岩手県）
・授業の速さを速くし過ぎないで欲しい。（高 1・北海道）
・こうした非常事態における zoom などによるオンライン授業体制の構築準備の必要性。（高 2・埼玉県）
・まずいじめを根絶して欲しい。（高 2・宮城県）
・まずは午前授業からとかにしてほしい。一気には頑張れない気がする。先生には個人面談してほしい。なんか学校こわいから。（高 2・北海道）
・今年の受験のやり方を何度も変えないで欲しい。塾の先生も学校の先生もどうなるかはっきりわからないと言われて、結局どうなるかのか早く決めて欲しいと思った。（高 2・宮城県）
・著名人までもが感染されて亡くなった方もいらっしゃる訳なのにそんな状況で学校を再開しても子供の不安はそう簡単になくなることは無いと思います。学校の再開は事態がある程度落ち着くまで延期にすべきです。（高 2・大阪府）
・新型肺炎にかかった際に、新学期に遅れて参加した子供がクラスで浮いてしまうようなことがないように、子供の心のケアやその子供の周囲の環境などをサポートするような地域と連携した施設や制度の導入が、あるといいと思う。（学年・都道府県無回答）

➢ **情報提供や意見尊重の必要性　132 件（9.3%）**

・コロナはどこからきたのか子どもにも教えてほしい。（小 1〜小 3・愛知県）
・次に同じようなことが起きた時には、突然でなく、そしてどうしても休校しなくてはいけない理由をきちんと話してからにして欲しい。（小 2・神奈川県）
・コロナウイルスなどの新型ウイルスの授業。（小 3・埼玉県）
・手あらいうがいがちゃんとやれているかが心配です。手あらいうがい、やり方のどう画がみたいです。（小 3・福島県）
・友だちのいもうとが小さい子だからかかったら心配。コロナウイルスはどれだけきんの強さが強いのかおしえてください。家族に老人がいるのでかかったらどうしたらいいですか。（小 3・福島県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・なぜ休校になったのかきちんと教えてもらっていない。デンマークでは偉い人が子どもに向けてきちんと説明してくれたとお父さんが教えてくれた。日本でもしっかり話をしてほしい。（小 5・東京都）
・色々なニュースがあり、正しいことがわかりにくいので今現在の正しい情報が知りたい。（小 5・東京都）
・政府に、いまコロナウイルスに感染している正確な人数を把握し、コロナウイルスの対策の方針を教えていただきたいです。（小 5・神奈川県）
・急に決めて急に始めないで欲しい。みんな戸惑ってるし、先生がすごいしんどそう。 みんなどれだけ大変な思いをしてたのか知ってますか？ そこまで決めてからいって欲しかった。（小 5・大阪府）
・政府にはもっと危機感を持って国民の声に耳を傾けてほしい。（小 5・神奈川県）
・いろんな人の気持ちをもっと考えた上で政治を行ってほしい。（小 5・京都府）
・急に休校が行われたら、こころの準備ができていないので慎重にしてほしい。（小 6・千葉県）
・なぜこんなことになったのかわかるように説明してほしい。（小 6・北海道）
・感染したかもしれない時どうすればいいかを教えてください。（小 6・北海道）
・コロナウィルスから回復した人の話をニュースで取上げて欲しい。（中 2・東京都）
・政府は、正確な数字を毎日出して欲しい。検査を受けた人の中で陽性反応だった人の割合とか、受けたかった人と実際に受けた人の人数の差など。（中 3・神奈川県）
・休校を決断してくださったこと自体は良いことだと思いますが、あまりにも急で驚きました。今後も私たちの生活に関わるような大きな政策はなるべく前もって教えて頂けるとありがたいです。（中 3・宮城県）
・被害拡大の防止とはいえ、卒業生の気持ちは最低限考えてほしかった。（中 3・福島県）
・政府に対して子どもの意見を聞いて欲しい。（中 3・大阪府）
・心構えが必要なので、始まる日を早目に教えてほしい。学校から、なかなか連絡が来ないのがいちばん不安だ。（高 1・山形県）
・なんで大人は会社だけじゃなくて遊んでいてもいいの？子どもだけを休校にしても家族の大人が会社に行ったり満員電車に乗って通勤していたら意味がないと思う。（高 1・東京都）
・大人の都合で子供の負担が際立って大きい。大人はずるい。子供だからと言わないで、きちんと話を、きいてほしい。都合にあわせて大人扱い、子ども扱いするのはやめてほしい。（高 1・大阪府）
・休校中の授業などについて、どのような対策がとられるのか知りたい。成績がどのように受験に反映されるのかしりたい。また、どうしてこどものみが休校なのかしりたい。大人が会社に行ったり、飲み会にでたりしたら意味がないと思う。（高 1・埼玉県）
・私の学校はオンライン授業が一切なく、学校からの連絡もあまりないので、これから学校がどうなるのか分からない。（高 1・奈良県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・政府にはもっと国民のことをよく考えてほしい。（高 2・熊本県）
・政府には事態が予測不可能で対応に追われるのはわかるけどあまりに突然なことが多くて気持ちが休まらない。計画的な話を聞きたい。（高 2・神奈川県）
・失われた教育機会に見合っただけの成果(感染拡大をある程度防ぐこと)が得られたのか、専門家がしっかり調査して、教育機会が失われた子ども(私)にきちんと説明して欲しい。（高 2・鹿児島県）
・現在社会はコロナウイルスによってどのような影響を受けたのかを生徒に正しく伝えること。（高 3・東京都）
・きちんとした情報を回してほしい。（学校とかもやけど、コロナの事などの嘘が流れないようにしてほしい。）（高 3・大阪府）

➢ **医療・保健衛生、行動規制、安全を求めるものなど新型コロナウイルス・感染症への対策 222 件（15.6%）**

・現在爆発的に感染拡大している状況で学校がはじまり学校での感染拡大が考えられる為、不安。安全管理を徹底してほしい。（小 1・長野県）
・はやくくすりはできないの。（小 2・熊本県）
・コロナウィルスをおいだしてほしいです。（小 2・福島県）
・いつもどおりの生活にもどれるといい。（小 3・宮城県）
・新がたコロナウイルスの薬をはやくつくってほしい。（小 3・岡山県）
・コロナをなくしてほしい。（小 4・佐賀県）
・なおす薬はいつできるのか？病院での人手の数。（小 5・福島県）
・もっとコロナ対策を厳しくやって安全に学校に行けるようにしてほしい。（小 5・東京都）
・人混みの多い商業施設を閉鎖して欲しい。（小 6・北海道）
・駅などに、サーモグラフィーを設置して欲しいです。（小 6・千葉県）
・もう少し社会全体の生活環境を良くしてほしい。（小 6・滋賀県）
・子どもだけど、必要でない外出をしている大人の人に、もっと呼びかけをしたほうがいいと思います。（小 6・佐賀県）
・コロナでからかわれたり、いじめられたりしている人が、出てきたら即、注意していただきたいです。（小 6・宮城県）
・自分や周りの人を守るために国が取った休校措置を守らない家族が多くてびっくりしている。欧米諸国のような外出していたら罰金ぐらいの措置がなぜできないのだろう。民放ではいかに「休校で困っているか」ばかり取り上げるが私の家族のように「感染を止めるためには収束するまで外出自粛」に賛成している家族も多いと思う。（中 1・神奈川県）
・政府はちゃんと検査をして下さい。（中 1・佐賀県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・コロナかどうかの検査を受ける人が行く病院と、他の症状で行く人の病院をできるだけ分けれたらな…。（中 1・熊本県）
・本当に安全なのか危険じゃない状態なのかをちゃんと判断して欲しい。判断が遅れるとそれだけ多くの人の命が危険になってしまうから専門家の人に多くの意見を求めたりしてみてほしい。（中 3・東京都）
・早く新型コロナウイルスに怯えないで済む暮らしを送りたいです。（中 3・宮城県）
・もっと検査数を増やしてほしい。早く薬を見つけてほしい。（高 1・熊本県）
・コロナウイルスの治療薬、ワクチンの開発を出来る限り早めにして欲しい。コロナウイルスが完全に日本から無くなり感染の可能性が無くなるまではずっと休校のままが良い。（高 1・宮城県）
・ヨーロッパみたいに外出禁止にしないと自粛ってあんまり効果なさげ。みんな遊びに行ってる。（高 1・東京都）
・新型コロナウイルスのせいで困っている人を助けて欲しい。（高 2・福岡県）
・もう少し後のことを考慮して政策を打ってほしい。（高 2・東京都）
・コロナにかかった人の差別が起きないような対策を政府の方はして欲しい。（高 2・福井県）
・行事などは大切な事だが、今の現状大切な事は中止などをして、新型コロナの拡大を防ぐことがもっと大切な事だと思うので、延期や、中止などはためらわずしてもらいたい。（高 3・東京都）
・危険度など数値化して状況を把握させて欲しい。（高 3・東京都）

➢ **マスクやトイレットペーパーなどの物資の供給　115 件（8.1%）**

・トイレットペーパーなど不足しているものを何とかして欲しい。（小 3・長崎県）
・学校にマスクをたくさんとどけてほしい。（小 1・福島県）
・消毒の徹底、マスクの配布。（小 6・宮城県）
・マスクが不足しているため、就職･進学する人にマスクを 1 箱ずつ配布してほしい。（18 歳・宮城県）
・食料を無料で、配ってほしい(カップラーメン、お菓子)。（中 2・宮城県）
・適切な対処法や、買い溜めの禁止を促す。その際、買い溜めの禁止の理由をきちんと論理的に説明してほしい。今回、ネット上のデマにより未だにトイレットペーパー等が不足しており、国内で大半が作られているという情報は後から回ってきた。デマは常々多くの人が騙され、もとより現代はデマが多く存在する。だからこそ、政府から信憑性のある話をして、このような起こらなくてもよかった事が起こる事を防いでいただきたい。（高 2・東京都）

➢ **遊びや運動、居場所など子どもが過ごせる場・機会・物・方法の確保・提供　104 件（7.3%）**

・暇潰せる物が欲しい。（小 5・大阪府）
・小さい子どもも、少し大きい子どもも楽しめるコンテンツを用意してほしい。（学年無回答・千葉県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・今の状態でも友達と行ける場所を考えてほしい。ちがう学校で会えなくなってしまう友達とも、また遊べる場所や時間がほしい。（小 6・東京都）
・コロナで大変な人がいっぱいいるから、ちゃんと支援して欲しい。子どもの行き場をもっとちゃんと増やして欲しい。（中 1・佐賀県）
・もうちょっと子どもが息苦しくないような生活にして欲しい。（中 1・佐賀県）
・休みの時の運動できるスペースや道具を準備して欲しい。（中 2・佐賀県）
・春休みなどの遊ぶ予定が全部なくなってしまったので、私たちみたいな人達が楽しめる場を作って頂きたい。（中 3・長野県）
・いきなり休校にするのではなく、受け皿などを用意してからにしてほしかった。（高 2・東京都）

➢ **経済や労働環境対策・支援　42 件（3.0%）**

・パパとママにおやすみをあげてほしい。（小 2・岩手県）
・コロナにかかった家族やしんせきなどにしえん金を出してほしい。（小 4・宮崎県）
・未学習単元の自主学習に必要な参考書購入費用の支援。（中 1・宮城県）
・休みになったから給食費や高校生の授業料は返してください。（中 2・佐賀県）
・社会や政府は 4 月から貧困世帯が増えないように考えてほしい。（中 3・宮城県）
・就学援助。できるだけ奨学金を多く頂きたい。（高 2・宮城県）
・金銭的な不安をなくしてほしい。（中 3・宮城県）
・共働きなどに関係なく、0〜18 歳までの子供がいる世帯への助成を手厚くすべきと思う。（高 1・宮城県）
・給付金はいつくるのか。（高 2・東京都）
・バイトに行けなくて今まで自分で払ってた学費や教科書代、定期代が払えません。（高 2・宮城県）
・就職にはなんらかのサポートをして他の年度に比べて不利にならないようにしてほしい。（高 3・神奈川県）
・税金をあげないで欲しい。（高 3・宮城県）
・しょうひぜいがへってほしい。（学年無回答・熊本県）

➢ **感染症対応全般に対するその他の要望**

・私の母は体が弱く、それでもなんとか私のためにがんばってくれています。そういう家庭の事をもっと考えてほしいです。（小 6・宮城県）
・今は特にないけど、学校が始まったら困ることがあるかも知れない。こわい。（中 1・神奈川県）
・大人が不安そうなところをできるだけ見せないで欲しい。（中 2・神奈川県）
・みんなが差別やいじめのない世界を作るための土台を作って欲しい。（高 1・東京都）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

現在の状況をポジティブ・前向きにとらえている回答　58 件（4.1%）

・今こんなことになっていることが、いや。お父さんとたくさん過ごせた時間はたのしい。（小 2・大阪府）
・「学校ずっと休みがいい！」て思ってる。（小 2・岡山県）
・不安になることもあるけれど、お父さんお母さんがちゃんと説明してくれます。友だちとも遊ぶことができています。前向きに過ごしたいです。（小 3・新潟県）
・このお休みで嬉しいこともある。ある友達が毎日習い事で忙しかったので、それが休めるようになってるみたいなので、心配しなくて良くなった。お家にずっといるので、集中していろんなことができる。新型コロナが早くおさまったらいいなと思う。（小 3・滋賀県）
・学校に行きたくないなと思います。家にいたいです。（小 5・広島県）
・この際にみんなの悲しい気持ちを明るく、元気にさせるチャンスは今だと思います。なので、政府や、地域の皆さん。そして、私達子ども達が何か出来ることがあるのならば、楽しい事や、元気になれる事を出来ると良いなと思っています。（小 6・千葉県）
・この休みは、日頃できない事に打ち込む良い機会となり有意義に過ごせています（中 3・神奈川県）
・困ってない。むしろ、YouTube でイケボをずっと聞けて私は幸せです。（中 3・長野県）
・早く学校に行きたい反面、この期間だからこそと行われているオンラインワークショップや講座などが貴重で日常では出会えない大人たちともかかわることができていて楽しいということもある。（中 3・埼玉県）
・日本も大変な状況ですが、私は命の危険にも晒されていないので、海外で命の危険に晒されている方に応援のメッセージと少しでも募金を届けられたらいいなと思っています。（中 3・大阪府）
・今まで夜 3 時間しか寝れないほど部活と勉強が忙しかったが、この休み期間で十分な睡眠時間を取ることができ体調が整った。まだ毎日勉強できたり私はこの休みはとてもいい期間だったと思う。（高 2・福岡県）

学童保育で過ごしている子どもの声

・たっきゅう・おせろ・しょうぎ・ボールあそび・そとあそび（小 1・宮崎県）
・学どうでお友だちと楽しくすごしています。（小 2・福島県）
・学どうにいってるからこまってない。（小 2・福島県）
・がくどうでみんなとあそんだりおべんとうをたべたりしています。（小 2・佐賀県）
・外でみんなでおにごっこやドッチボールであそんでいる。（小 3・福島県）
・がくどうで友だちとひみつきちで遊んでいる。（小 3・福島県）
・がくどうで友だちと本を読んですごしています。（小 3・岡山県）
・学童で友だちと遊んでいる。（家でるすばんしている。）（小 3・岡山県）
・じどうクラブで、友だちとブロックや、ダンスをしている。（小 3・佐賀県）
・学童で友だちと一しょにおりがみや、工作をしている。（小 3・佐賀県）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

・放課後子どもクラブで、一人で折り紙をしています（友達と遊んじゃだめだから）。（小 4・大阪府）
・学童クラブで指導員と、ほかの子ども達と外で遊んでいる。（小 5・岡山県）
・学童で友達や先生とべんきょうや遊びをして楽しく過ごしています。コロナウィルスで外に出てあそべないのでダンスやふうせんバレーなど室内で体を動かす運動もしています。そのように私たちの健康のことを考えてくれる先生がたに感謝したいです。（小 6・福島県）

その他自由回答

・聴覚に障害があり、普段は読話による会話をしているので、マスクをしている人と会話することができません。しかし今はマスクの着用が当たり前になっていてマスクを外して欲しいと頼むことができないので、そのような人がいることをもっと知ってほしいです。どこに行っても誰もがマスクをしていて、私のような聴覚障害者はコミュニケーションを取れず、日々疎外感を感じています。人と気軽にコミュニケーションが取れないのがこんなに辛いことだと思いませんでした。（高 2・埼玉県）
・僕は病気の治療で免疫力が落ちていて喘息もあるので、コロナウイルスにかかりたくないからどこへも行けないし友達と遊べないからヒマです。学校が始まっても本当に大丈夫か心配です。僕はインフルエンザが学校で流行した時も 1 週間くらい学校を休みます。家にいても勉強ができたりお友達や先生と会えるようにしてほしいです。（小 4・岡山県）
・肝臓移植をして、免疫抑制剤を服用しているので、命の危険があり、休校要請を是非延期してもらいたい。持病がある子どもでも安心して生きられる環境になるまで、無茶な判断はせずに、今一度、休校解除を検討してほしい。長期戦になることを覚悟して、国としてテレビで授業が出来るように関係企業にお願いをしてほしい。（小 1・東京都）
・先生やクラスメートに虐められた場合に、自宅でも勉強を続けられるシステム、守って貰えるようおねがいします。（一浪・東京都）

※掲載したコメントは、自由回答からセーブ・ザ・チルドレンが抜粋した。

<集計においてみられた学年ごとの特徴>

- **小学生（低学年）　650 件**

  家族と一緒や放課後児童クラブ（学童保育）などで過ごしている傾向があるが、子ども一人で、または兄姉のみと家で過ごしている子どももみられる。困っていることでは、友だちと会えない・遊べないこと、外に出られないこと、自分や家族や友だちなど近い存在の人物が感染していないか、マスクや消毒液の不足への心配がみられた。

  学童保育経由ではない子どもたちの回答を見ると、より外に出かけられていない、友だちと過ごせていないことが目立った。学童保育経由で回答した子どもたちは、「人と会えない・会いたい」が 19.2%であったが、学童保育経由ではない子どもたちは約 4 割となった。求める対策として、学童保育経由ではない場合、「学校生活のあり方」が最も高く、約 2 割となった。学童保育経由の回答の場合、医療・保健衛生など「新型コロナウイルス・感染症への対策」を記述した割合が最も高く、1 割を超えた。

- **小学生（高学年）　336 件**

  自分で公園へ遊びに行ったり、家族と家で過ごしたり、学童保育で過ごす子もいるが、一人で留守番をしているような子どももみられる。低学年に比べると一人で過ごす時間がある割合も増えている。友だちと会えないこと、勉強についていけるか、小学校の卒業式・中学校の開始について心配するような声がみられた。

  過ごし方「家に子どもだけでいる時間がある」において、学童保育経由で回収した回答では、0.0%であったのに対し、学童保育経由ではない場合には、5.9%が回答した。また「ひま、退屈、つまらないと感じている」において、学童保育経由で回収した回答では 9.5%であったのに対し、学童保育経由ではない回答の場合には 18.2%が記述していた。子どもたちが置かれた環境によって過ごし方の違いが生じていることがうかがえる。求める対策として、学童保育経由で回収した回答は、感染症対策やマスクなどの物資の供給について記述してあるものがそれぞれ 2 割を超えており、学童保育において行われている感染症対策を子どもたちも受け止め、考えている様子がうかがえた。一方、学童保育経由ではない回答は、「学校生活のあり方」に関して対策を求める記述の割合が最も高く 2 割であり、次いで感染症への対策となった。

- **中学生　234 件**

  自宅で勉強、趣味、インターネット、ゲーム、テレビを見ることなどをして過ごしている子どもが見られ、「一人で過ごしている時間がある」割合は約 3 割であった。「人と会えない・会いたい」は 16.2%が記述しており、友だちとはなかなか会えていない様子がうかがえた。「非日常の特別な体験の喪失」

について言及している回答の割合が 12.0%あり、卒業式や部活動の試合などの機会が失われたことが要因と考えられる。

自分なりに過ごせている子どもと、そうではない子どもとの差が見られたが、スマートフォンなどデバイスの所持の有無によって左右される可能性がある。また、親とずっと一緒に過ごすことについて不満を漏らす子どももいた。卒業生はお別れが十分にできなかったことを惜しみ、大人に対して理解を求める声もあった。学びに関わる心配ごとも 2 割を超え、要望も「学校生活のあり方」に対するものについて 17.9%が記述していた。

- **高校生世代　185 件**

  中学生以上に、SNS、Youtube などオンラインリソースを駆使して過ごす様子がうかがえ、「スマートフォン・動画・インターネット」に関わる過ごし方の記述が 2 割を超えた（p.66）。一人で過ごしている時間がある子どもが 3 割以上だが、友だちと SNS などで連絡をとる様子もみられた。

  「生活習慣のみだれ」「運動不足・体力の低下」「学力の低下など学びに関わる心配ごと」に関して記述している割合が、すべての年齢を通じて最も高かった。図書館が閉館しているなど中高生向けの居場所がない様子もみられ、中学生同様、親と一緒にいることのストレスを記入している子どもや、少数ではあるがアルバイトのシフトが削られてしまいおこづかいが減った、学費が払えないという懸念を示す子どももいた。

  社会の様子やニュースなどに敏感であり、対策において「情報提供や意見尊重の必要性」について記述した割合が 2 割を超え、「経済や労働環境対策・支援」は 8.1%と、それぞれ全年齢で最も高かった。政府などの対策の意図をふまえながらも、子どもたちの置かれた状況を考えた上で望む政策を提案している子どもたちもいた。

6. アンケートでは聴こえづらかった子どもたちの状況に関する支援者の声

本アンケートは実施期間が短く、周知・配布先・配布方法も限定的であったことから回答に偏りが見られました。特に、より困難な状況にある子どもたち[3]の声については十分に聴けていないと考えられます。そこで、こうした子どもたちの声に寄り添う支援者の方々に、それぞれの状況にいる子どもたちの声や様子・課題、必要とされる支援などについて寄稿していただきました。一部の方に関してはセーブ・ザ・チルドレンがインタビューを行い、その内容をまとめたものをご本人に確認いただく形式をとりました。

➢　外国にルーツがある子どもたち

外国につながる子ども・家庭も、対策の当事者に

特定非営利活動法人みんなのおうち　代表　小林普子さん

※セーブ・ザ・チルドレンが 4 月 15 日にインタビューを行い、その内容をまとめました。

「みんなのおうち」では、新宿区で外国にルーツを持つ小・中学生の子どもたちを対象に、日本語と教科学習支援を行っています。休校要請を受けて 3 月に学校が休みになり、学習場所が過密となるためいったん閉めましたが、子どもたちから「膨大な宿題が出た」との声がありました。日本語の問題や、自宅に勉強するスペースがない状況もあるので、曜日・人数を制限して再開しました。けれど、子どもたちの居る場所がないため、結局みんな来てしまう。その後、都知事の外出自粛要請があってからは完全に休みとし、個別対応のみ行っています。

子どもたちの通う学校は、もともと外国ルーツの子どもが多いため、新型コロナウイルスに関して特定の国に対する偏見などがあるとは聞かれていません。一方、日本語が十分でないため、「出された宿題を自分だけで解決するのがすごく大変」と子どもたちは話しています。これは従来からの問題ですが、感染症のため行く場所がなくなり、友だちとも会えないことで、さらに困っている現状があります。日本語を少ししか話さない保護者も多く、休みに入ると、学校から発信される情報を子どもが一人で判断しなければなりません。学校にいれば友だちに聞けますが、それもできない。外国ルーツの子は、学校と支援教室、そして居場所でしか学習できないので、高校受験において不利益を被るのではと心配しています。

子どもも保護者も、狭いコミュニティの中で生きているため、行ける場所がなくなったことで、正確な情報が子どもたちに伝わっていない問題もあります。「ここの居場所は 3 密だよね」と子どもに話しても、「大丈夫、僕らはかからないから」と危機感が伝わらない。ニュースは見ないですし、新聞も購読していません。スマホを持っていても、ゲームをするだけでネットにつながっていなかったりします。社会から隔離されている状態にある中で、たとえばシングルマザーの家庭などでは、社会に関する情報が家庭に出入りする日本人男性からしか入らない状況もあります。話を聴いていて、「それは違うよ」とこちらが言っても、「あの人が言うから正しい」と、その日本

[3] 国連子どもの権利委員会は、4 月 8 日に出した声明の中で、脆弱な子どもたちとして以下をあげている。このうち、短期間の間にセーブ・ザ・チルドレンが依頼できた分野の支援者に寄稿いただいた。「障害のある子ども、貧困下で暮らしている子ども、路上の状況にある子ども、移住者・庇護申請者・難民・国内避難民である子ども、マイノリティおよび先住民族の子ども、ＨＩＶ／ＡＩＤＳを含む基礎疾患がある子ども、自由を奪われている子どもまたは警察の留置場、刑事施設、閉鎖養護施設、移住者拘禁施設もしくはキャンプに収容されている子どもならびに施設で暮らしている子どもが含まれる。」

人男性の情報が正しい・最善であると思い込んでいる側面があります。行政も、多言語ややさしい日本語で発信するなど努力をしていますが、ほぼ 365 日働いている人たちは、コミュニティの中で情報を得ようとします。アンケート調査なども、より窮している人は答える暇もなければ、答えることで何か改善されるという認識がなかったりするため、そのような状況に置かれた子どもや家庭の場合は、個別訪問して伝える方がよいのではと感じています。

「みんなのおうち」に来る子どもたちは、低所得・生活保護利用家庭やシングルマザーの家庭が多いのですが、子どもたちの話を聴いていると、ホテルや飲食業、マッサージ店などで働いている保護者の仕事がかなり減ってきている様子です。今回の感染拡大で訪日者も減少し、多言語対応ができるという価値があっても働き口がなくなる。外国ルーツの家族や子どもが、よりリスクの高い、悲惨な状況に追い込まれてしまいかねません。また、保護者も子どもも虐待と思っていない中での虐待の問題もあります。新宿区内では、外国籍の就学年齢の子どものうち８００人に当たる子どもが未就学状況にあると確認できたとも報告されており、この子どもたちは働かされている可能性もあります。新型コロナウイルスの感染拡大によって、外部との接触がなくなり、これらの潜在的な問題がよりひどく、より見えなくなってしまうのではと懸念しています。

新型コロナウイルス対策の生活支援においては、外国ルーツの人も必ず含めてほしいです。行政は、少なくとも学校に行っている子どもは把握できているはずなので、その子どもたちの家庭についてもう少し細かく調べてもいいのではないでしょうか。今回、現金給付の話があがっており、外国籍の人たちも含むと報道されていますが、永住ビザか就労ビザかなどで線引きされるのではないかと危惧しています。その場合、生活をどうしていくのか非常に心配です。

加えて、今一番必要と感じているのは、子ども自身が相談に行ける場所をつくること。公的な多言語相談の窓口は大人向けです。子どもは、ほっとしたところで愚痴も言うし、家の状況も話してくれます。それを大人の側が拾いあげることで、適切な場所につなげたり、何が正しいかを伝えていけます。子どもたちがいつでも気軽に行ける、自分をオープンにできる場所をつくることができれば、そこに保護者も寄ってきて話せたりして、保護者の抱えている問題もわかってきます。居場所的な場所がもっと増えるといいなと思っています。

➢　チャイルドラインに寄せられる声

子どもたちも一緒に乗り越える「当事者」－対策に求められる視点

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター　専務理事　髙橋弘恵さん

※セーブ・ザ・チルドレンが 4 月 16 日にインタビューを行い、その内容をまとめました。

全国各地のチャイルドラインに電話をかけてくる子どもたちから、「親がイライラしていてうるさい」、「仕事がないので親が家にいて、ちょっと暴力的なので怖い」といった話が聴かれています。「不安」の訴えが一番多いです。感染や先行きに対する漠然とした不安もあるし、友だちと会えないことや親が喧嘩していること、「勉強しなくていいの？」と不安を抱えている子もいます。

通常時は、学校や人間関係でうまくいっていない子どもたちの声が入ってきていましたが、「学校がなくなって楽になった」との声が聞こえてきたことも特徴的です。一方、もともと学校が居場所であったり、先生に相談していた子どもたちは、拠りどころがなくなっている様子で、先生たちの日頃のがんばりを実感しています。ほかに、病院から電話をかけてくれる子たちからは、面会ができなかったり退院予定が長引いてしまったことによる不安の声、働いている子たちからは、「バイトが休みになっちゃって、お金が入ってこない」などの相談もあります。また、２～3 月に受験を控えていた子たちが「もう１つ残っていた受験を受けられなくなってしまった」と話すことなどもありました。

チャイルドラインにつながるのは、電話をかけられる環境やパワーのある子どもたちなのですが、その子たちがネガティブなことをずっと感じ続けているということは、子どもたち全体がそうなっていくということでもあり心配です。子どもたちも、感染しないための休校であることを理解しつつも、我慢しないといけないこの理不尽さにイライラしたり寂しかったり、しんどい思いをしていて、それが長引くとどうなっていくのか。「怒り」にはならないまま、弱っていくのではと懸念しています。正しい情報や「こうしていれば大丈夫」という情報をちゃんと子どものところまで届けることが必要です。

不安の声も週によって上がり下がりがあり、休校要請が出された 3 月の 1 週目は不安が高く、学校再開の見通しや卒業式などの実施が決まった 2 週目にいったん落ち着いたものの、休校が長引くにしたがって、再びぐんぐん高まっている印象です。不安な気持ちが社会の情勢に連動するのは、大人も同じですね。

今の状況を東北の震災の時に例えられることもありますが、電話を受けていると、今のこの状態は初めての印象です。子どもは大人のことをよく見ているので、大人が自粛できていないことを「おかしい。何で大人は勝手しているんだ」と訴える子もいます。休校などで「自分たちが抑え込まれてしまった」という感覚が 3 月はまだあったのだと思います。緊急事態宣言が出て、大人も大変だと分かってからは、また違っているかもしれず、引き続き声を聴いていきたいと思っています。

また、見えづらい問題として、もともと「家に帰りたくない」と話していた子どもたちのことも心配です。家に帰りたくない理由は、親の虐待。本人は虐待と思っていなかったり言わなかったりしますが、「家が本当に危ないな」と感じる子どもたちはいて、今どうしているのかすごく気がかりです。この状況下で、その子たちの存在が隠れてしまっている気がします。

そのため、家にいられない子どもたちが集まって生活できる場が必要です。シェルターのような場が各地にあって、児童相談所に相談したら、まずそこに避難して安心していられるように。今打ち出されている色々な政策は、「家なら安全、家ならできる」という前提なので、そうではない子どもたちの SOS を上げづらくしているのではないか、と思います。ただでさえ、感染者の滞在施設などに苦慮している情報が流れると、「自分たちの場所もほしい」とは言いづらい。積極的に情報発信して取り組まないといけません。優しい子や「自分なんか」と思っている子が多いのですが、子どもたちにも、自分たちが助けてもらっていい存在だとわかってほしいし、居場所をちゃんと用意される対策が進むとよいと思っています。

もう一つ、この新型コロナウイルスに影響を受けている当事者として、子どもたちを見てほしいです。「言うことを聞いてなさい」ではなく、「大変だけど一緒に頑張ろうね」という呼びかけを子どもたちにしてほしいと思っています。外で遊んでいる子どもが通報されるなど、弱いところに大人の苛立ちや非難が向かうと、それは違うと思います。まず最初に、子どもは協力したんです。人が大勢集まるということで休校措置が取られたのだと思うの

で、子どもたちは「協力してくれてありがとう、お願いしますね」と言ってもらうべきです。「これをなぜ誰も言わないんだ！」と思っています。

➢　経済的に困難な状況にある子どもたち

鳴き止んでしまった「カナリアの声」

公益財団法人あすのば　事務局長　村尾政樹さん

以前、貧困研究の先駆者が子どもの声を「カナリアの声」だと話していました。経済的に厳しい地域で勤務する教師が、炭鉱労働者が炭鉱へ入るとき籠に入れたカナリアを連れて鳴き止むと有毒ガスの発生を知らせる前兆という例えから紹介していたそうです。

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、言うまでもなく子どもたちも日常の暮らしを大幅に制約・剥奪されてしまう事態に陥っています。あすのばでは、日本の子どもの貧困問題解決のために活動を行っていますが、私たち支援側に立つ多くの人々が危惧していることのひとつは、貧困や虐待など子ども・若者を取り巻く環境で起きるさまざまな問題がさらに深刻化してしまうことです。あすのばでも活動に関わる高校・大学生世代にオンラインで一人ひとりヒアリングを行っていますが、地方で暮らすある高校生は進路の悩みをそっと打ち明けてくれました。

「親は精神的に仕事ができない状態で、兄弟も中退し仕事を始めたけど接客業だからコロナもあって今後の経済的な不安が大きい。進学予定だったけど、正直悩んでいる」。

この高校生は以前に部活もあきらめて「武器」がないと感じ勉強で学校推薦をもらえるよう準備してきたけれど、試験が延期になって実施の目処も立っていないと話してくれました。お金の面でも親戚からは「何とかするから」と言ってもらったそうですが、学校からは以前アルバイトの許可がもらえず不安で悩んでいました。あすのばで開催した合宿に参加し、似た境遇の友達と出会えたことで「自分も頼られる存在になりたいと思えたんですけどね」と話してくれたとき、少しだけ声が明るくなりました。

もう一人、休学中のある若者は感染拡大の影響もあってアルバイトの目処が立たず一人暮らしの家賃支払いが困難になったという声も聴きました。元々この若者は経済的な理由で進学を一度は断念し、念願の進学後も親への仕送りや姉妹の世話を抱えてきました。SOS を出しても良いんだよと伝えても若者は「少し前ならもう少し出せていたかもしれないけど、もう年齢的に･･･」と、率直な想いを話してくれました。

このような声や状況に既存の施策でも支援できるものがあるかもしれません。しかし、多くは「本当に」困っている人が対象です。例えば、緊急経済政策の議論でも結果的に一律支給へと展開しましたが厳密な所得減少の幅や世帯主収入で判断するなど、生まれる支援の崖や溝は「言っても無駄」を生み出し、『助けて』を言い出しづらくさせることにもつながります。

そして、国民全員にさまざまな「自粛」を求められる今、我慢を強いられ続け切なる声を失ってきた人々の想いはさらに聞こえづらくなっています。特に子どもたちは我慢を強いられている分、尚更でしょう。鳴き止んでしまった「カナリアの声」を、子ども・若者の問題から社会全体の構造的問題と捉えることが必要です。聞こえてくる

声だけによる表面的な政策論議を超えて、子ども・若者はじめ声をあげづらい状況にいる人たちなど私たちが生きる「私たち」への想像力と今一度、粘り強く聴こうとする姿勢が試されていると私は思っています。

➢　不登校の子どもたち

新型コロナウイルスの影響下を生きるフリースクールの子どもたちの声

特定非営利活動法人東京シューレ　佐藤信一さん

東京シューレは現在 4 つのスペース（東京都北区、新宿区、大田区、千葉県流山市）でフリースクールを運営しており、6 歳から 23 歳まで約 190 名が在籍しています。日常はそれぞれのスペースで、子どもミーティングを中心に様々な活動や学びを実践していますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため 3 月から現在に至るまでスペースは閉室とし、オンラインでの活動を手探りながら行っています。

文科省における最新（平成 30 年度）の不登校児童・生徒数は小中合わせて、16 万 4 千 500 人、高校は 5 万 2 千人になります。彼ら・彼女らがそれぞれの状況下で不登校を生きていますので、あくまでもその一例になりますが、それでも東京シューレの子どもたちが表明してくれた状況は不登校を生きる子どもたちを考える一つの貴重な声になると思います。

【新型コロナウイルスの影響で困っていること・嫌なことなど】
・感染が怖くて外出できない。
・感染そのものよりも、感染に対する社会の目が怖い。
・学校をやっている間は昼間も外出することができたが、今は学校が休みなので、外出すると学校の知り合いに会ってしまうのではないかという不安から外出できない。
・フリースクールの友人たちと会うことができない。暇になってしまう。
・親が在宅のため、オンラインでも自分の話したいことをスタッフに話しづらい。
・親のテレワークにより Wi－Fi のデータ通信料が一気に増えてしまい、オンラインで動画を見たりすることが制限されてしまう。

【新型コロナウイルスの影響で学校が休校のため、やりやすくなっていること】
・不登校であることや在宅で過ごすことへのうしろめたさ、罪悪感などを持たずに安心して自分のペースで過ごすことができる。

東京シューレの子どもたちは、不登校であることで家をベースに自分らしく過ごしている会員も多いです。その一方で 2016 年に普通教育機会確保法（略称）が成立し、学校復帰政策が緩められつつある中でも、まだまだ「学

校に行って当たり前」という空気が強いため、自己否定感や自責感を抱えながら生きている子どもたちも多いのです。

したがって、子どもたちにとって新型コロナウイルスの影響は、大きくわけて 2 点あると思います。1 点目は、感染や反応する社会への不安、学校の知り合いに会うのではと思うように外出できない、フリースクールの仲間に会えない、親がテレワークをしている、などによるストレスを抱えていることであり、日に日にその度合いは増しています。一方、学校が休校になったことにより、不登校であることへの自己否定感や自責感から解放され、安心して自分らしく過ごせる状況をもたらしている、という点もあります。共に無視できない側面だと思います。

最後に、子どもの声とは少し離れますが、現在フリースクールには恒常的な財政支援がなく、在籍している保護者の支え（会費）を中心に成り立っています。子どもたちが来たいときに安心して過ごし、様々な活動や学びを子ども中心に展開するには人件費や場所代などの固定費がかかってしまいます。新型コロナウイルスを受け、保護者もそれぞれに影響を受ける中で、必死に決して安くない会費を捻出してくださっていますが、フリースクールだけでの自助努力では限界があります。子どもにとっての大切な場が失われることのないように、学校外の居場所・学びの場にも財政支援が一刻も早く講じられるよう求めていきたいと思います。

➢　医療的ケアにつながる子どもたち

医療者と一緒に戦わざるを得ない子どもたち

チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会　会長　井上絵未さん

チャイルド・ライフ・スペシャリストは、医療環境にある子どもや家族に、心理社会的支援を提供する専門職です。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックの渦中でも他の疾患や怪我がなくなるわけではなく、子どもたちの療養生活は続いています。地域で感染症蔓延期という状況が発生すると、病院では“地域のすべての人が感染している可能性がある”という前提での対策を行います。地域差や医療機関ごとの違いはありますが、COVID-19 の感染対策として子どもの療養環境にも様々な制限が生じています。特に子どもにとって影響が大きい制限は 2 つ。1 つは、家族と過ごす時間の制限。もう 1 つは学びと遊びの制限です。

「辛いとき、頑張りたいときに家族にそばにいて欲しい」「頑張る子どもに付添い、応援したい」その当然の願いが叶わない子どもたちや家族がいます。感染対策として面会制限を設けた病院が増えているためです。面会時間の短縮、片親のみなどの人数制限、なかには完全に家族の面会が禁止となった病院もあります。長期療養する子どもにとっては治療の区切りの目標や楽しみである外出や外泊も制限されるようになっています。家族と過ごす、その当たり前のことが病院内でも病院外でも難しくなっています。家族と過ごす時間の制限は、入院中の子どもだけでなく離れて過ごすきょうだい児も含めた家族にも大きな気持ちの負担となっています。

小児医療では、子どもに生じる心理社会的負担を軽減するために遊びと学びの機会が保障されるよう取り組まれています。しかし、現状ではその保障も難しくなっています。感染対策として院内学級や訪問学級の休校、入院児の集団保育の休止、プレイルームの利用制限や閉鎖、玩具や本の貸出制限や休止、ボランティア活動の休止が多

くの病院で行われています。病院内の行事やイベントも中止となっています。子どもの病院内での行動制限や子ども同士の交流が制限されはじめています。

ただでさえ辛く苦しい時もある療養生活にあって、家族や友人との時間や遊びや学びの機会が制限され、子どもたちに大きな負担がかかっています。その表れとして、気持ちや生活リズムが不安定になることもあり、また、活気や治療に向かうモチベーションも低くなりがちです。

小児医療に関わる医療者の多くは、これらの制限が子どもと家族にとっては心理社会的な危機となると認識しながらも感染対策として苦渋の決断をしています。制限の中で葛藤しながら子どもと向き合っている医療者が感じる心理的負担も忘れてはいけない課題です。

状況がより厳しくなり、子どもの COVID-19 患者が増えることも危惧されます。まずは、子どもに現状（COVID-19 や感染対策の必要性）を説明するためのツールが必要です。子どもたちに安全に遊びを提供するために、使い回すことなく十分に個々にいきわたるだけの玩具、文房具、本や DVD、タブレットなどのエンターテイメントの確保も必要です。直接会えない子どもときょうだい児を含めた家族、友人同士をつなぐツールの導入も急がれます。物的支援だけでなく、子どもたちが抱く孤独感を支えるサポート体制も検討しなければいけません。しかし、医療者は安全に医療を提供し続け、目の前にいる子どもに対応することで手一杯の状況です。これらの支援は後手に回っており、さらなる支援が必要です。

小児医療現場では、医療を安全に提供し続けるという使命に加え、様々な制約の中で療養生活を続けている子どもと家族の心理的負担を軽減するための努力と対応を続けています。この困難の中で医療者と共に頑張っている、頑張らざるを得ない子どもと家族の存在を少しでも多くの方に知っていただきたいと願っています。

➢　障害のある子どもたち

特別支援学校の子どもたちの現状と課題

特別支援学校教員（岡山県）

新型コロナウイルス感染症対応に伴って、全国の子どもたちが、毎日学校に行くことのできる日を望んでいることと思います。

私は岡山県で、知的障害と肢体不自由の子どもたちが通う特別支援学校の教員をしています。岡山県では、2 月 28 日に 3 月 2 日からの臨時休業の通知が出されました。しかし、すぐに家庭や福祉サービス等での対応が即時に難しく、やむをえず居場所がなくなる児童生徒のために、通常通りの時間で、学校で預かる対応をしました。3 月 2 日から 6 日までの一週間は、スクールバスが運行し、給食も提供されたため、50％の児童生徒が登校しました。9 日からは給食の提供がなくなり、お弁当をもってきての預かりになったため、30％の児童生徒の登校に減りました。50%のうち登校できなくなった 20％の児童生徒は、朝に食事を準備することが難しいということが分かりました。特に、肢体不自由の児童生徒は、ペースト等の昼食の準備が難しいため登校人数が激減しました。

登校していない児童生徒は、どのように過ごしていたのか。日中一時支援等福祉のサービスを利用できた児童生徒は、30％程度でした。市町村によって福祉サービスの受け入れ体制に差があり、一ヶ月間、児童生徒の見守り

をすることで疲弊した保護者がいたり、子どもの面倒を見なければということで離職した保護者がいたりすることがわかりました。

4 月 1 日から児童虐待防止法が改正されました。長期間の休みになり、そして今後も、外出の自粛が求められています。家族との時間が増えることはとても良いことです。しかし、リスクが高まる家庭も存在します。在校生や新入生で児童相談所や子ども相談センター等の見守りになっている家庭は、情報を共有する必要があることを教職員に伝えました。特に、更衣の場面や身体計測の場面等で、身体の様子を確認するようにしました。

4 月から学校が再開されました。どの学校でも最初に身体計測があります。登校できなかった一ヶ月でしたが、不要不急の外出を自粛することと、安全に室内で見守るために、運動不足と過度の菓子類の摂取により、例年以上に体重の増加した児童生徒が増えていました。在宅での生活と安全の維持の難しさが浮き彫りとなりました。

4 月 7 日に 7 都府県に非常事態宣言が出され、岡山県では、給食は提供されますが、午前中だけの短縮授業になりました。児童生徒には、マスクの着用を呼びかけましたが、マスクの着用を嫌がる児童も多く、全員が着用することは難しかったです。マスクがないので、電車に乗るのが怖くて欠席するという生徒も出てきました。登校前の検温も保護者にお願いし、連絡帳に記入欄を設けて確認するようにしました。体温計も品薄で学校で検温して、37 度 5 分以上体温があり、登校後すぐにお迎えを依頼するケースがありました。

4 月 16 日に全国に非常事態宣言が出されました。それを受けて、岡山県から 4 月 20 日から 5 月 6 日まで再び臨時休業の通知が出されました。今回も 3 月と同様に、家庭や福祉サービス等での対応が即時に難しく、やむをえず居場所がなくなる児童生徒のために、通常通りの時間で、学校で預かる対応をすることになりました。しかし、今回はスクールバスは運行されますが、給食が提供されない対応でした。本校では、再び 30%の児童生徒の登校に減りました。

学習の積み重ねや理解が難しかったり、十分に IT 機器が整備されていないこともあり、すぐにオンライン授業に取り組みにくい特別支援学校の児童生徒にとって、今後の学習保障は、大きな課題です。

➢　社会的養護にある子どもたち

新型コロナウイルスが親元を離れて暮らす子どもに与える影響

子どもの声からはじめようプロジェクト　川瀬信一さん

児童養護施設で暮らす子どもたちのための活動をしています。新型コロナウイルスの感染拡大は、親元をはなれ、児童養護施設などで生活している子どもにどのような影響を及ぼしているのでしょうか。

多くの施設では今、感染を予防するために子どもの外出や外部からの来訪を制限しています。必要な対策とはいえ、保護者との面会や帰省（保護者宅への一時的な帰宅）が中止になったり、自立に向けて貯金をする必要がある高校生がアルバイトを自粛せざるを得なかったりと、様々な形で不利益が生じています。

休校や外出制限によって友達との関わりが途絶えることも、子どもにとって深刻な問題です。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの調査からは、子どもの年齢が上がるにつれて、SNS を介して友達と交流している様子もみられました。しかし、施設で生活している子どもの多くは、SNS を使うことができません。経済的な事情、契約上

の問題、トラブルの回避といった理由で、スマートフォンやパソコンを持てないことが多いからです。友達が当たり前に使っている SNS を利用できないことは、子ども社会で孤立するリスクと言えます。また、休校や外出制限は、四六時中、同じ集団の中で生活することを意味します。施設では、一人で過ごす空間・時間が取りづらく、常に他の子どもや職員の目が気になります。以前であれば、学校に通ったり外に遊びに行ったりすることで、場面が自ずと切り替わりました。今は、集団生活が苦手な子どもや、施設の中で人間関係のトラブルを抱えている子どもにはつらい時間が続いています。一般家庭では、リモートワークや休校によって家族の接触頻度が増え、さらに社会不安が家庭内に波及した結果、家庭内のストレスが増大し、ドメスティック・バイオレンス（DV）や虐待の増加が確認されています。施設で生活している子どもたちも、集団内の関係が緊密になることでストレスが増大します。トラブルが増え、中にはいじめや暴力に発展する場合もあるでしょう。このような状況において、子どもの最善の利益を保障するには、どうすればいいのでしょうか。

まずは、子どもの声を聴くことが大切です。友達と会えない、遊びにも買い物にも行けない、この状況がいつ終わるのかもわからない。こうした不満や不安を、子どもが望む相手に受け止めてもらう機会をつくります。子どもの心理的な安全性を高める上では、「プライバシーへの配慮」という観点で生活環境を見直すことも有効でしょう。また、社会的つながりを形成・維持する上で SNS が果たしている役割を直視し、情報モラルやネットリテラシーを育む機会と併せてインターネット環境を子どもに提供していく必要があります。

ここまで新型コロナウイルスの感染拡大による施設の子どもへのネガティブな影響に注目してきましたが、長い春休みを歓迎し、のんびりと過ごせている子どもも少なくないように感じます。「職員と話す時間が増えて関係が深まった」という前向きな声もあります。子どもの声に学びながら、この局面を乗り越えていきたいです。

7. 子どもの声を聴く取り組みを行っている連携団体からの報告

本アンケートは新型コロナウイルス感染症対応において、子どもたちの声が十分に聴かれていないという問題意識から実施しました。全国各地には、同じような課題意識を持ち、子どもたちの声を聴き取る取り組みを行っている団体があります。そのうち、これまでセーブ・ザ・チルドレンの活動で連携してきた 2 団体から、どのような子どもたちの声があったのか、そこから社会に求めるものは何かについて寄稿をお願いしました。

➢ 石巻市子どもセンター　らいつ　の取り組み　（宮城県）
Web アンケート調査から見えた子どもの声

石巻市子どもセンターらいつでは、新型コロナウイルス感染拡大予防のため休校になったことで、子どもがどんなことを思っているのか、困っていること、悩みはなにかを調べ、発信するため、Web アンケート調査を行いました。(調査期間：3/16～3/31、有効回答数：42 件)本調査や電話相談、アウトリーチ活動（訪問活動等、情報や支援を積極的に届ける活動） から見えてきたことは、以下の 2 点です。

①　休校による自宅待機が続き、子どもの心身に影響が出ている。

「休校して、自宅で過ごすことで、困っていることや悩んでいること」という質問に対し、1 番多い回答は「友だちと遊べない」でした。「生活リズムが乱れる」、「体を動かせない」という回答も多く、自宅待機が続き、遊びが制限され、体にも影響が出ている様子です。他にも、勉強面や食の面など学校で担保されていた「当たり前」がおびやかされている状況です。「学校へ行きたくない」などの回答もあり、これまでの日常において子どもたちが抱えていた課題も改めて浮き彫りになりました。

②　子ども自身ができることをしたい、どんなことができるか考えたいと思っている。

「学校が休校になって、どんな気持ちですか？」という質問に対し、一番多い回答は「驚いた」でした。「不安」「イライラする」「どうにもできない」といった回答もみられ、学校の休校が突然決まり、普段と異なる生活で、多くの子どもがストレスや無力感を感じていることがわかりました。

そんななか、「対策についておとなと一緒に考えたい」と回答し、「少しでも予防が出来る方法を伝えたい」(高校生／男)と自分もなにかしたいと考えている子どももいました。

東日本大震災後、多くの子どもが「まちのために自分も何かしたい」と答えたこと、その後「子どもまちづくりクラブ」の活動かららいつの建設に至ったことからも、子どもが主体的に何かをしたい、できる存在であることが言えます。

今回の新型コロナウイルス感染拡大をはじめ、緊急時の子ども「支援」は心のケアなど、子どもが保護の対象と捉えられることが多くあります。しかし、子どもの発達段階に合わせた情報提供を行い、子どもの声を聴き、子どもが主体となって行動できる環境をつくることは、緊急時や、日常において、重要な子ども「支援」です。

子どもは自分の気持ちを聴いてもらい、どうしたらよいか一緒に考えることで、自身が意見を言ってもよい存在であり、何かできる存在だと気づきます。それにより、自分で考え、行動することができ、自己肯定感が高まるな

ど、ポジティブな変化が生まれます。これは、子どもの不安や無力感を取り除き、心の安定にもつながります。またこうした過程は、当事者意識をもった行動につながり、より効果的な感染拡大予防にもつながると考えます。

石巻市子どもセンターらいつは、今後も子どもたちにとって最善の利益は何か、子どもの声を聴きながら、子どもたちとともに考えていきます。

➢ 子どもの権利条約フォーラム in とうかいの取り組み　（東海地方）
子どもの声の聴き取りを政策提言に

春休みを控えた 2 月末にだされた休校要請により、東海 3 県のほとんどの学校が 3 月 2 日から休校となり、子どもたちの過ごす環境は大きく変わりました。普段、子どもたちの身近にいて子どもたちの活動を支えている私たちは、市民の一員である子どもたちが社会から置去りにされることを危惧するとともに、この事態を子どもたちはどう感じているのか、子どもたちの声を直接・間接に聴き取りました。

ヒアリングは、主に児童館やプレーパークのプレイワーカー、居場所・学習支援スタッフが職場とその周辺で直接ヒアリングしたり、子どもアドボケイト[4]が各地でヒアリングしたりするなどのほか、ネットを通しても集め 3 月 2 日～25 日の緊急期の間に総数 164 件（内ネット 19 件）の回答がありました。

乳幼児保護者からの回答では、地域近隣の住民から「出歩くな」と言われるケースもありました。小学生からは、「友達と会えなくてヒマでしかたない」「突然休みになって悲しい」「ゲームをやりすぎて飽きるほどだ」また、「学校に行かなくてよくなってうれしい」という声も複数ありました。中学生は、「公園に人があふれている」「遊ぶ場所がない」「昼夜逆転している」「相談する場所がない」など。高校生は、「カラオケに頻繁に行く」「バイトの収入が減って困っている」などでした。気になる点は、児童館でヒアリングした小学 3～6 年生の約 7 割が家にだれもいないこと。食事も用意されていないこと。中学生の半数の主食が菓子類であることでした。子どもだけで食事も用意されずに過ごしている状況が相当数あるのではないかと推察されます。ヒアリングは今後も続ける予定です。また緊急期として下記の提言をまとめ、自治体の長や関係機関に届ける予定です。

緊急期（3 月 2 日から 25 日まで）に集まった子どもの声から作成した提言

1. 子どもにとって、身近で、自ら駆け込むことができ、直接声をあげることができる施設及び子どもの声を受け止めることができる大人（施設職員やアドボケイト）の存在が有用です。
2. 平常時から子どもの居場所や学習支援に関わる大人（施設職員や事業者等）が、子どもの最善の利益の為に働けるよう緊急に関わる活動のガイドラインの整備を各分野で進めることを要望します。
3. 私たちの呼びかけが届いた子どもたちの声は聴くことができましたが、子どもの声を聞くことが必要だという意識がある大人が傍らにいない子どもたちの声を拾うことは困難でした。そのような子どもたちの声を拾うには、市民の力だけでは限界があります。こうした時にこそ、弱い立場にある子どもたちの声に耳を傾

[4] 子どもの側に立って、子どもが話したいことを自ら話せるように支援したり、本人の依頼または承諾を得て子どもの思いや意見を代わって表明する人

け、その声により課題を見出し改善策を提言していく子どもコミッショナーのような役割を子どもの権利擁護機関、またはそれに代わるものが、果たして欲しいと願っています。私たちも市民としてできることを協力します。

4．今回の世界的な緊急事態から見える課題から、これからの日本は、働き方などの社会変容に伴い、子どもの最善の利益のために動ける大人や予算を増やすなど、システムの変革が求められることになっていくと考えられます。そうした社会の土台となる「子どもの権利」「子ども条例」などへの理解、普及への絶え間ない取り組みが必要です。

8. 研究者からのコメント

子どもの声にくり返し耳を傾け、直面する諸課題にできる限りの対応を

住友剛（京都精華大学教授）

子どもの権利、子どもの意見表明権に着目して教育学や学校安全を考える研究者として、このアンケートから読み取れること、課題を提起したい。

１．本来であれば行政当局がこのような調査を実施すべきである。

この調査結果は、あくまでも１つの民間団体が、2020 年３月の全国一斉休校の時期に実施し、そこに回答を寄せた子どもたちに限ってのものである。

では４月以降、特に政府が緊急事態宣言を発出した後の子どもたちの生活の状況や悩みなどについて、たとえば市区町村・都道府県や文部科学省、厚生労働省、内閣府といった行政当局は、どれだけ正確な状況把握に努めているのだろうか？　本来であれば一民間団体からの働きかけを待つのではなく、行政当局が自ら積極的に動き、学校や学童保育等の現場と連携して、休校中の子どもに何が生じているのかをていねいに把握するべきである。

２．当事者である「子ども」の声を聴くということ

たとえば調査結果のなかには、「急に決めて急に始めないで欲しい。みんな戸惑ってるし、先生がすごいしんどそう。みんなどれだけ大変な思いをしてたのか知ってますか？そこまで決めてからいって欲しかった」（小５・大阪府）「子供だからと言わないで、きちんと話を、きいてほしい。都合にあわせて大人扱い、子供扱いするのはやめてほしい」（高１・大阪府）といった意見がある。いずれも「子どもへの情報提供の不足」を訴える意見であるが、情報提供と同時に、子どもの「意見聴取」も不足していたとも理解可能である。

ちなみに国連子どもの権利委員会の「新型コロナ感染症（COVID-19）に関する声明」（2020 年４月８日付）※では、各国政府に対して、「今回のパンデミックに関する意思決定プロセスにおいて子どもたちの意見が聴かれかつ考慮される機会を提供すること。子どもたちは、現在起きていることを理解し、かつパンデミックへの対応の際に行なわれる決定に参加していると感じることができるべきである」ことをもとめている。この声明の内容は、１で述べた行政当局による調査とも重なるので、あえてここで紹介しておきたい。

○３月の休校と、４月以降の（いつまで続くかわからない）休校とのちがいに目を向ける

この調査結果は卒業式・終業式を前にした３月、年度末の休校時の子どもたちの思いを反映したものである。学校側も子どもたちもある程度、一年間のやるべきことを終えたあとの休校と、年度初めの４月、入学式・始業式及びその直後に、その学年の土台になる人間関係をつくる大切な時期の休校とでは、子どもたち及び学校側の双方にとって、持っている意味が異なる。また、４月以降現在実施中の休校は、いったいいつまで継続されるのかがわからない。となれば、この３月の調査結果に現れた子どもたちの悩み、直面する課題は、４月以降、より深刻なものになって現れている危険性がある。しかし３月時点とは異なり、４月の緊

急事態宣言発出後、学校や学童保育などの現場に、子どもたちの諸課題への対応が可能な余力がどのくらい残されているのだろうか。

〇学校現場でも「子どもの声を聴く」ことから対策を考える

休校中および学校再開後の対応のどちらにしても、実際におとなたちが何をすればよいかは、やはり「子どもの声を聴く」こと、「子どもの生活の現実から出発する」ことの２点である。たとえばこの調査結果において、子どもたちは「コロナウイルスについて教えてほしい」「新学期の授業は前の学年の復習からわかりやすくゆっくり教えてほしい」「月１回でいいから友達と遊べる機会がほしい」といった意見を示している。今後の休校中の支援および学校再開時においては、このような意見をふまえつつ「開放的空間、人数の分散、適度な距離感」（いわゆる「三密」の逆）を意識した活動を検討・実施することが必要ではないか。現場では手間のかかることかもしれないが、地域の感染状況に応じさまざまな工夫をして子どもたちの願いにできる限りこたえることを考えられないだろうか。また、学校再開を検討する際、たとえば遊びや多様な表現活動を通じた子どものケアや仲間関係づくり、子どもの参加・参画による再開後の学校づくりなど、過去の災害発生時の子ども支援の取り組みにヒントを得て、長期間にわたる子ども支援のあり方について今から検討しておくことも大事であろう。

まだまだ他にも言いたいことは多々あるが、まずは行政当局が自ら積極的に動き、子どもたちの直面する諸課題を把握して、今のうちからさまざまな手を打っていただきたい。そのことを切に願うところである。

※p.69 参照

子どもに注意を向け、声に耳を傾けることで求められる心理社会的サポート

池田美樹（桜美林大学准教授/日本臨床心理士会/日本公認心理師協会）

子どもが現状をどのように捉えているかについて、子どもの実際の声を集められたことの意義は大きく、アンケートを実施したセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへの敬意を表する。回答期間である３月 17 日~31 日は、休校開始後約２週間を経て「続いている休校」という事態に対する心理的な反応が現れていると考えられる。

他者とのつながり、適切な教育環境が失われている現状

アンケート結果を概観すると、「困っていること・心配なこと・気になっていること」の回答では、「日常生活が送れていない・外出できない」（31.4%)が最も多い割合を占め、次いで「人と会えない・会いたい」(20.5%)」、「体調やり患、心の変化、感染拡大への心配・懸念」（16.0%）、「勉強ができない、学力の低下、学校のことなど学びに関わるもの」(15.7%)の順である。一方、「学校再開やコロナ対応策への要望」では、「医療・保健衛生、行動規制、安全を求めるものなど新型コロナウイルス・感染症への対策」（15.6%）、「学校生活のあり方」（13.0%）、「情報提供や意見尊重の必要性」（9.3%）の順に割合が高

い。日常生活の変化を、外出や人と会うこと、そして学習活動が思うようにできないという体験から実感している。子どもは、周りの人との適切な関係性「つながり」の中で、人に対する安心感や信頼感を育くみ、心理的な安定の基盤を形成して行く。休校が続く中で、他者とのつながりを実感できる機会が少なくなり、孤独感、不安や恐れ、意欲の低下などの一時的な心理的ストレス反応が生じている。さらに、学習を促す適切な教育環境が失われていることにより、自律的に学習することの困難さ、学力低下や学力不足、進路・将来への不安が認められる。一方、ネガティブな反応だけではなく、ポジティブな捉え方をしている回答も見受けられ、平時とは異なる状況に対して、子ども自身の力で状況に適応して行く力を持っていることが示されている。

子ども自身が対処していけるような大人の支援を

日々、感染拡大に関する状況が変化する中でのストレスは、大人も同様である。大人は、これまでの知識や経験を資源として用い、対処することができる。一方、子どもは、成長・認知発達の過程であるため、知識や経験が少なく、状況の理解や対処がうまくできないこともある。後述するように子どものストレス反応は、見逃されやすい。子どもが現在の状況にうまく対処して行けるように、周りの大人が見守り、必要とされる手助けをすることが求められる。周りの大人が、安全・安心感を持って過ごせることは、子どもの安全・安心感につながる。そのためには、まず、命に対する安全感、すなわち感染症への対策が適切に行えるよう、大人自身が適切な情報を得て理解した上で、「今何が起こっているのか」を子どもが理解できる形で伝えられること、そして、衣食住といった生活の基盤を整えられることが大切である。その上で、子どもの教育環境の整備は急務であり、休校が続いている中でも、人とのつながりが感じられ、かつ適切な教育が受けられるように、直接関わる周りの大人と国が協同して取り組むべき問題であろう。

子どもの反応は時間が経ってから生じることもある

子どものストレス反応は、直後に現れず、時間が経ってから現れることがある。これは、子どもが表現する力、理解する力が未熟であることも関係しているが、周りの大人や社会の不安や恐れ、緊張した状態に対して、子どもの自然な表現や行動が抑制されている場合がある。また、大人自身のストレスが大きいと、子どもの世話や養育に注意が行き届かなくなりがちである。特に他者との交流が制限される環境では、虐待や夫婦間の暴力の問題も深刻化しやすい。普段と異なった生活リズムは、通常の生活が再開した際に大きな努力を要する。これらはいずれも、心理的ストレス反応（身体の痛み、不眠、食欲の変化、恐怖や不安、自責感など）が持続したり、不登校や非行など社会的適応行動の問題として現れる可能性がある。周りに対する不信感や孤立は、将来的に社会生活での適応を阻害し、孤立感、不安感、抑うつ感をより強める。中長期に渡る子どもの反応は、数年単位で続くことが知られている。子どものこころの健康を保つためには、どの時期においても、子ども見守りながら、子どもの自由な表現や活動を周りの大人と社会全体で支援していくことが望まれる。

9. おわりに

セーブ・ザ・チルドレンは、子どもの権利の実現を使命とする団体です。子どもの権利条約第 12 条には子どもの意見表明権が規定されています。私たちは、この感染症拡大という未曽有の事態にあっても、子どもたちの思いや意見が尊重されながら対策が進められるべきであると考えていました。しかし、感染が徐々に広がり、子どもに関わる重要な対策がとられる中で、あまりにも子どもたちの声が聴かれていないことに危機感を強めました。そこで、一民間団体としてできる範囲は限られていたとしても、この時に子どもたちが感じていることを広く社会に伝えなければならないと考え、本緊急子どもアンケートを実施しました。

結果的に、15 日間で、小学 1 年生～18 歳くらいまで、41 都道府県から 1422 件もの回答が寄せられました（有効回答）。幅広い世代を対象としたこと、また大人側が設定した選択肢ではない子どもたちのそのままの声・気持ちを寄せてほしかったことから、自由回答式を採用しましたが、子どもたちはそれぞれがその時感じていたことをあげてくれていたと思います。周知や配布方法が限定的であったので、このアンケートをもって日本全体の子どもの傾向をとらえているということは残念ながら言えません。しかし、子どもたちの思いが後回しにされてしまう傾向にある状況の中、このアンケートは子どもたちのそのままの思いを知り、対策に役立てるという意味で一定の意義があったと考えています。

アンケートから、子どもの経験が制約を強いられている状況、学校の重要性、子どもが育ち、学ぶ機会に差が生じることを懸念する声も上がりました。また、「困っていない」「要望はない」など現在の状況にあまり不都合を感じていない子どもたちがいる一方、子どもの権利の観点から見過ごせない回答として、時間を持て余して過ごさざるを得ない、育つ時間・機会を奪われている子どもたちの存在がうかがえました。家族関係のストレスで家庭が安全・安心ではない様子、保護者の仕事の減少や、収入の見通しが立たない中で、子どもたちに食の欠落や、経済的な困窮の影響が及んでいることを示す声も寄せられました。

また、今回は対象外であったため集計には含めませんでしたが、海外（ベトナム、ノルウェー、アメリカ、ドイツ）にいる子ども・若者からの投稿もありました。「お友達に早く会いたい」「みんなが新型コロナウイルスにかかっていないか心配」「コロナウイルスについてもっと勉強したい」「食べ物が十分に販売されていない。学校の授業がオンラインになり、勉強が十分に理解できない」など日本にいる子どもたちと同じような心配ごとがあったほか、「（注：これから帰国するため）この 1 件での支出を今後賄えるか。バッシングを受けるのではないか」など海外在住ならではの意見もありました。海外にいる子どもたちもこの状況について何かを伝えたいと感じていることをうかがわせました。

今回のアンケートは子どもを対象としましたが、一部保護者が自分の思いを書いたと思われる例もありました。「子どもが休みになり、食費、光熱費がかかる。その分補助してほしい」「子どもだけで留守番させてて心配」「障害を持った子どもを抱えた親は大変」「給食費、通学の定期を戻してほしい」「パートで飲

食店勤務なので失業の恐れがある。マスクや消毒液、その他色々買わなければならず出費が増えたのに対し、休日出勤や残業が減り収入が減った為、ゆとりがなくなりギリギリの生活」など、保護者の抱える苦悩も垣間見えました。

一方、集計を進めるにつれ、より困難な状況に置かれやすい子どもたちの声を十分に聴けていないという課題意識を持ちました。そのため、全体版報告書にはそうした子どもたちの様子や必要とする施策などについて、現場で子どもたちに寄り添う支援者に寄稿をお願いしました。もともとの困難が深刻化することへの懸念、対策が進められる中で見えづらく・聴こえづらくなる状況に対する危機感が伝わってきました。寄稿によって、さまざまな環境に置かれた子どもたちの状況を、重層的に伝えられたのではないかと思っています。

子どもたちの声や支援者の寄稿を通じて最も感じたことは、感染症対策において子どもたちが当事者であると認識されていないという事実です。子どもたちからは、自分たちが大人の判断に従うべき存在、我慢して当然の存在に追いやられていることに対する叫びのような憤りも聴かれました。住友剛氏が、国連子どもの権利委員会による声明を引用しています。声明ではこのような感染症対応下においても、子どもの最善の利益の原則をふまえること、子どもの意見表明権を確保することを指摘していますが、この緊急子どもアンケートでは、国連子どもの権利委員会が声明で各国に要請した措置の多くに関して、子どもたち自身が言及しました。子どもたちは今、自分たちの環境がどのように制限され、制約されているのかを最もよく把握しています。一方、アンケートから時間の経過した今、さらに深刻化している状況や新たな困難が子どもたちに生じている可能性があります。そんな中、その子どもたちに何も聞かずに感染症対策を進めたのなら、子どもにとって最善の利益を反映した感染症対策を取ることはできないでしょう。また、池田美樹氏が指摘しているように、中長期的な視野を持ち、子ども自身がこの問題に対処できるよう、大人側がサポートする体制も重要です。子どもも、一人の主体者としてこの問題を乗り越える力があります。

子どもの権利の研究者である安部芳絵氏が指摘したように、セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちは新種の感染症という世界規模の課題を前に、この難題をともに乗り越える、仲間だと思っています。この報告書を通じて、子どもたちも対策の当事者であることを認識する大人が増えることを願ってやみません。

アンケートには子どもたちの願いも寄せられました。「私達子ども達が何か出来ることがあるのなら」「1日も早く収束することを祈ります」こうした子どもたちの願いをともに叶えるために、子どもたちの権利を保障することができるか、政治的な実行力が求められています。

最後に、このアンケートに協力してくれた子どもたち、また親・養育者のみなさま、学童保育の関係者のみなさまなど、子どもたちの回答をサポートしてくださった大人のみなさまに心より感謝申し上げます。

10.新型コロナウイルス感染症に関するセーブ・ザ・チルドレンの活動や今後の予定

本アンケート結果から明らかになったことを踏まえ、子どもの視点に立った新型コロナウイルス感染症対策を進めるよう政府・国会議員などへ働きかけを行います。また、本アンケートに回答があった内容のうち、子どもたちの不安や心配に関して、日本臨床心理士会と日本公認心理師協会に協力を依頼し、子ども向けの回答を作成し SNS で公開しました（p.67 参照「子どもたちに読んでほしい『こんなとき、どうする？』」）。

アンケート結果やより困難な状況にある子どもたちの現状をふまえ、感染症対策にあっても子どもの権利を保障するために、子どもや家庭に対しての直接支援を実施することや、子どもの意見尊重の重要性に関する社会啓発などの活動も検討しています。

＜セーブ・ザ・チルドレン概要＞

セーブ・ザ・チルドレンは、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現された世界を目指して活動する国際 NGO です。1919 年にイギリスで設立され、現在、世界 120 ヶ国で子ども支援活動を実施しています。日本では 1986 年にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが設立され、国内外で活動を展開しています。http://www.savechildren.or.jp/

<新型コロナウイルス感染症に関連するセーブ・ザ・チルドレンの活動>

「新型コロナウイルス感染症対応・放課後児童クラブ緊急サポート」全国の放課後児童クラブ（学童保育）への活動支援金の提供を開始（2020.04.16）

【要望書】新型コロナウイルス感染症対策下において、子どもを虐待・体罰等から守るための要望書（2020.04.10）

【動画】子どものこころのサポート 第 3 回 周りの大人へもサポートを（2020.03.13）

【動画】子どものこころをサポート 第 2 回 見るポイント・聴くポイント（2020.03.11）

【動画】子どものこころのサポート 第 1 回 反応・行動（2020.03.10）

・新型コロナウイルス感染症対応 全国一斉休校要請に伴う第 2 弾緊急対応策に対する緊急声明を、首相はじめ、関係省庁へ提出しました（2020.03.06）

・子どもに関わるすべての方々へ「感染症対策下における子どもの安心・安全を高めるために」（2020.03.02）

11.参考資料

➢ **アンケート用紙**


おもてめんに書ききれなかったこと

子どもの権利条約　第12条
子どもは、子どもに関わるすべてのことについて、自分の意見を自由に表し、きちんと聴かれる権利をもっています

どんなことでも、
みんなの思いや意見をきかせてください。

国際NGOセーブ・ザ・チルドレンは、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現された世界をめざして、日本をはじめ世界約120ヶ国で活動しています。私たちは、子どもや若者の声が聴かれることはとても大切だと考え、子ども・若者へのインタビューなどさまざまな活動を行っています。(www.savechildren.or.jp)

「子どもの声・気持ちをきかせてください！」
2020年春・緊急子どもアンケート

こんにちは！セーブ・ザ・チルドレンです。
新型コロナウイルスの感染が広がって、2月のおわりから学校が長いお休みになったり、とつぜんの卒業をむかえたりしている人も、たくさんいると思います。
このアンケートでは、いま、みなさんがどんなことを思っているのか、学校がまたはじまるときにどうしてほしいかをきかせてもらい、これからおこなわれる取り組みが、子どもたちにとって少しでも良いものになるように他の大人たちに伝えたいと思っています。書いてくれた内容は、誰が書いたかわからないようにして、政府や社会に届けます。ぜひみなさんのご協力をよろしくお願いします。

対象　全国各地の小学生以上の子ども（18歳くらいまで）
※内容でわからないことがあれば、まわりのわかる人に聞いてみてください。

※保護者のみなさま、子どもの周りにいるみなさま
感染症や休校に伴う対応など、大変な中恐縮されていることと思います。しかし、こうした状況だからこそ子どもたちの思いや意見を政府や社会へ伝えることが重要だと考えています。どうぞアンケートへのご理解・ご協力をお願いいたします。

主催 Save the Children セーブ・ザ・チルドレン　協力 広げよう！子どもの権利条約キャンペーン


■回答期間　3月22日（日）必着
※この日までに回答してもらった内容は、3月中に発表します。期限が短くてごめんなさい。
でも、ぜひ協力してもらえるとうれしいです。3月22日を過ぎてしまった場合でも、3月中であれば受けつけています。

■回答方法

1 インターネットで回答する
ウェブページに直接入力して回答できます。
https://forms.gle/kqdw7KJTzGCBfWBs7

2 セーブ・ザ・チルドレンに送る
右のアンケートを切り離して郵便又はファックスで送るか、写真を撮ってメールで送ってください。

3 団体・学童の人にわたす
回答したアンケートを団体・学童の人にわたしてくれたら、その人がセーブ・ザ・チルドレンに送ってくれます。

【連絡先】
住所：〒101-0047　東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4階
セーブ・ザ・チルドレン　国内事業部
メール：japan.soap@savethechildren.org
ファックス：03-6859-0069　電話：03-6859-6869（平日 9:00-17:00）

アンケートの内容についてもっと知りたいときは、【連絡先】のセーブ・ザ・チルドレンの人に聞いてください。
（個人情報は、アンケートに関わる連絡のみに使い、セーブ・ザ・チルドレンが責任をもって管理・保管します。本人の承諾なく、第三者に情報を提供しません。）

なにか相談したいとき

学校がとつぜんお休みになるなど、いつもとちがうことが起きているなかで、不安な気持ちになったり、イライラしたりするのは自然なことです。そんなときは、保護者や学校・施設の先生など、まわりの信頼できる大人と話してみてください。
また、きそく正しい生活は、こころと体の健康を高めます。いつもより、よく寝て、食べて、動きましょう！
そのほか、「ウイルスについてちゃんと知りたい」、「今すぐ聞いてほしいことがある」などのときに使える、情報・相談窓口を紹介します。

● 新型コロナウイルスについて、正しい情報を知りたい
厚労省や日本小児科学会のホームページで紹介しているので見てみてください。
厚労省 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00017.html
日本小児科学会 http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=326
● 心や体の調子がわるい
がまんしないで、保護者やまわりの信頼できる大人に伝えてください。
● 暴力やイヤなことをされて、誰かにたすけてほしいこと、親や先生など身近な人にも相談しにくいことなど
自分の住んでいる市町村または一番ちかくの「児童相談所」に相談するか、電話で「189」にかけてみてください（お金はかかりません）。
● どこに相談したらいいかわからない
10代のための相談窓口まとめサイト「ミークス」（https://me-x.jp/）でいろんな相談先がしらべられます。
また、18歳までの人は「チャイルドライン」（https://childline.or.jp/）に電話すると、なんでも相談できます。

「子どもの声・気持ちをきかせてください！」
2020年春・緊急子どもアンケート

このアンケートは、書きたい人が書いてください。
書くんも、「こたえたくない」「むずかしいな」と思う質問は書かなくて大丈夫です。答えられるところだけ書いてください。

1. あなたは何年生ですか？
（あてはまらない場合、「その他」に年齢を書いてください）
小1・小2・小3・小4・小5・小6・
中1・中2・中3・高1・高2・高3・
その他（　　）

2. 住んでいる都道府県を教えてください。

3. あなたは、学校が休みになってから、昼間どこで・だれと・何をして過ごしていますか？
（いくつでも）

4. 学校が休みになってから、何かこまっていること、心配なことや気になっていることがあれば教えてください。（自分のこと、家族や友だち、まわりのことなどなんでもOK）

5. 学校がはじまるときや、就職・進学など新生活がはじまる前に、大人（家族や先生、地域の人など）や社会、政府にしてほしいことがあれば教えてください。

6. そのほか、どんなことでも思っていることを教えてください。

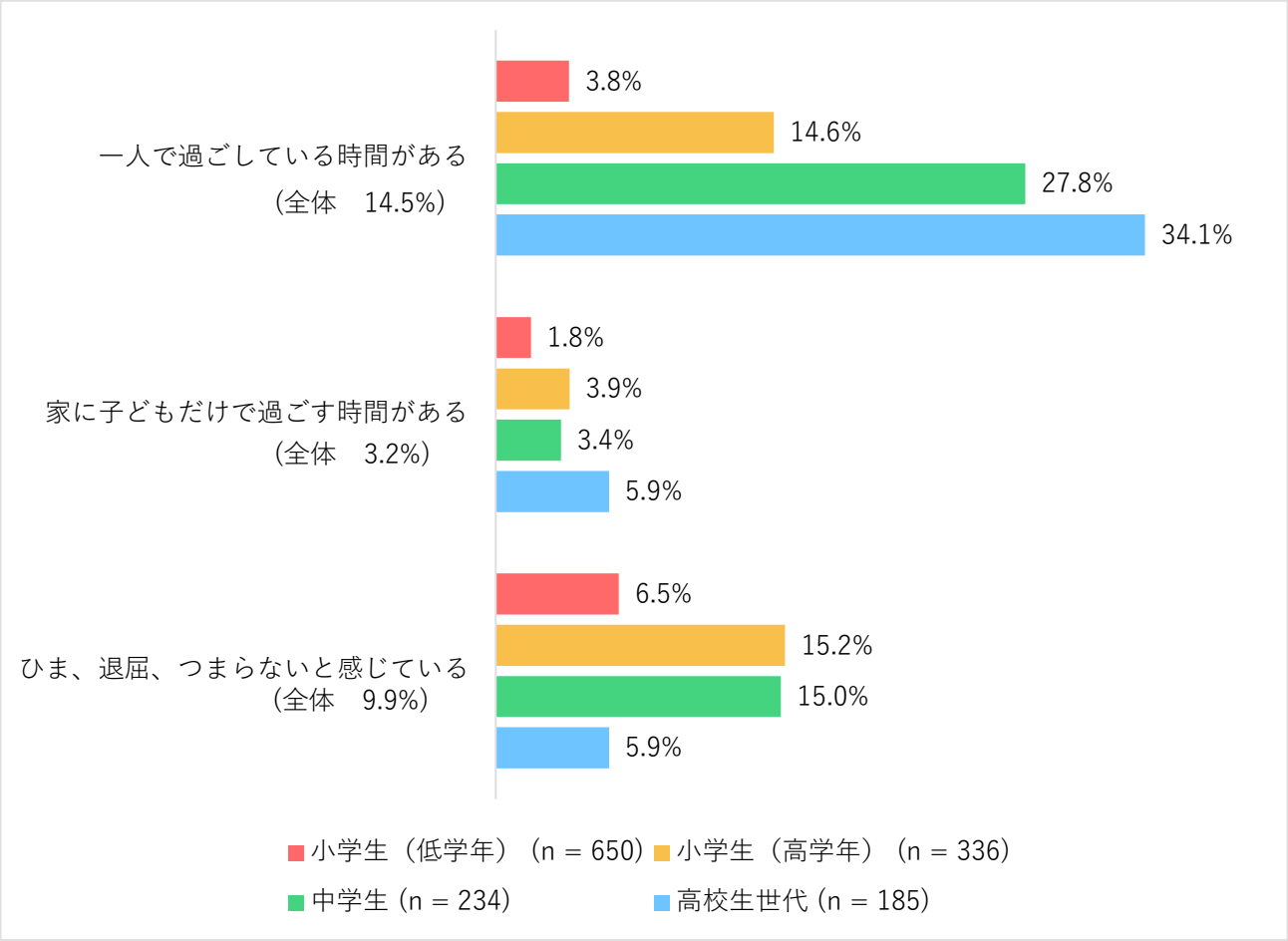
書ききれない場合はうらめんに書いてください
※みなさんが思いてくれた内容は、だれが言いたかわからないような形にセーブ・ザ・チルドレンがまとめて、政府や社会に伝えます。電子を作ってわたしたり、インターネットやSNSで紹介したりします。その時に誌字や原文はセーブ・ザ・チルドレンが編集することがあります。

アンケートの結果について、後日セーブ・ザ・チルドレンから連絡をもらいたい人は、あなたが使える連絡先をこちらに書いてください。

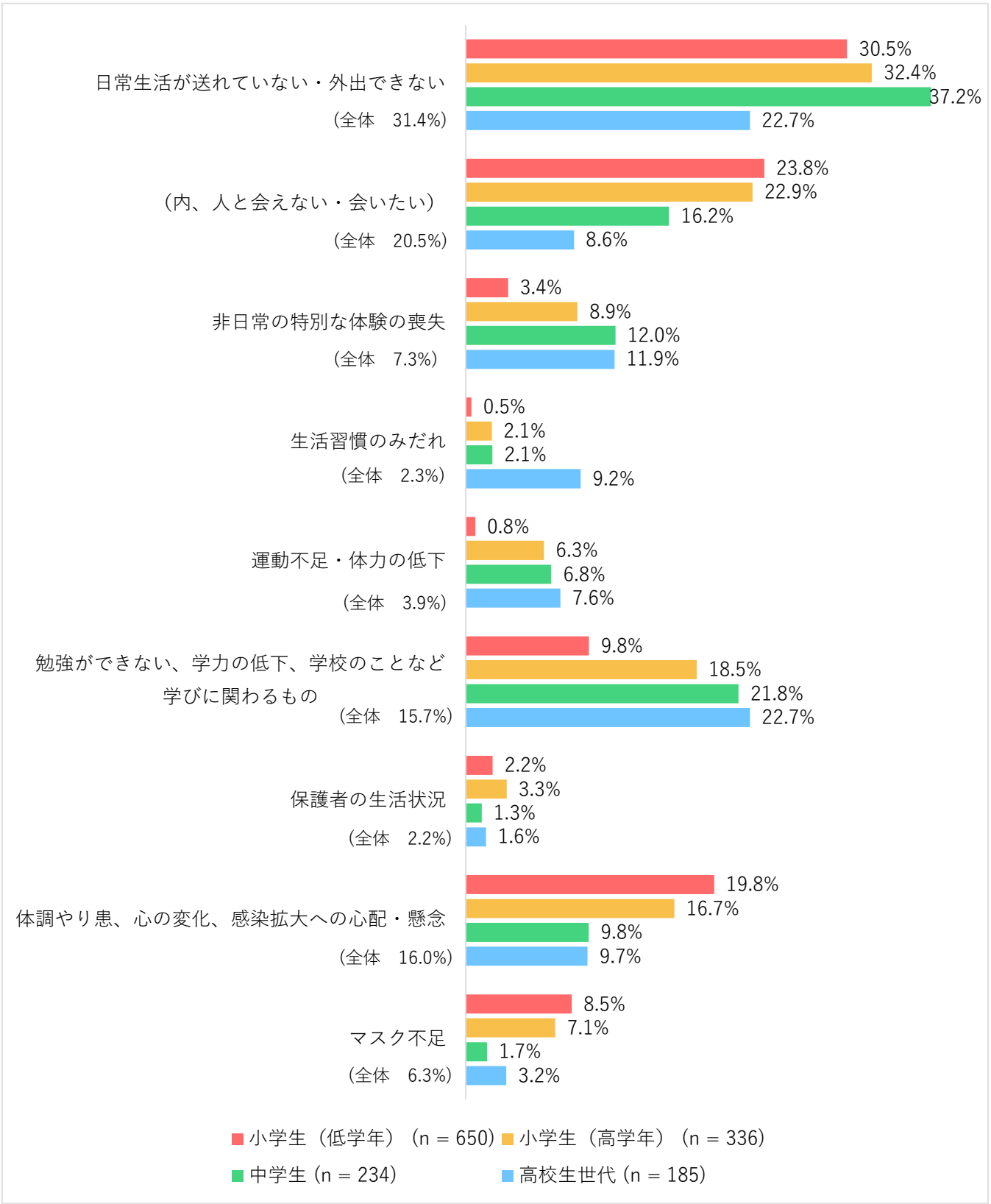
➢　**小カテゴリー集計結果（年齢４区分）**

本編では、年齢を「小学生（低学年）」「小学生（高学年）」「中学生」「高校生世代」の 4 つに区分し、小学生に関してはさらに学童保育から取りまとめて送付された回答かどうかに基づいて分類した集計結果を載せた。本項では補足として、回収方法を考慮しない、4 つの年齢区分の集計結果を掲載する。

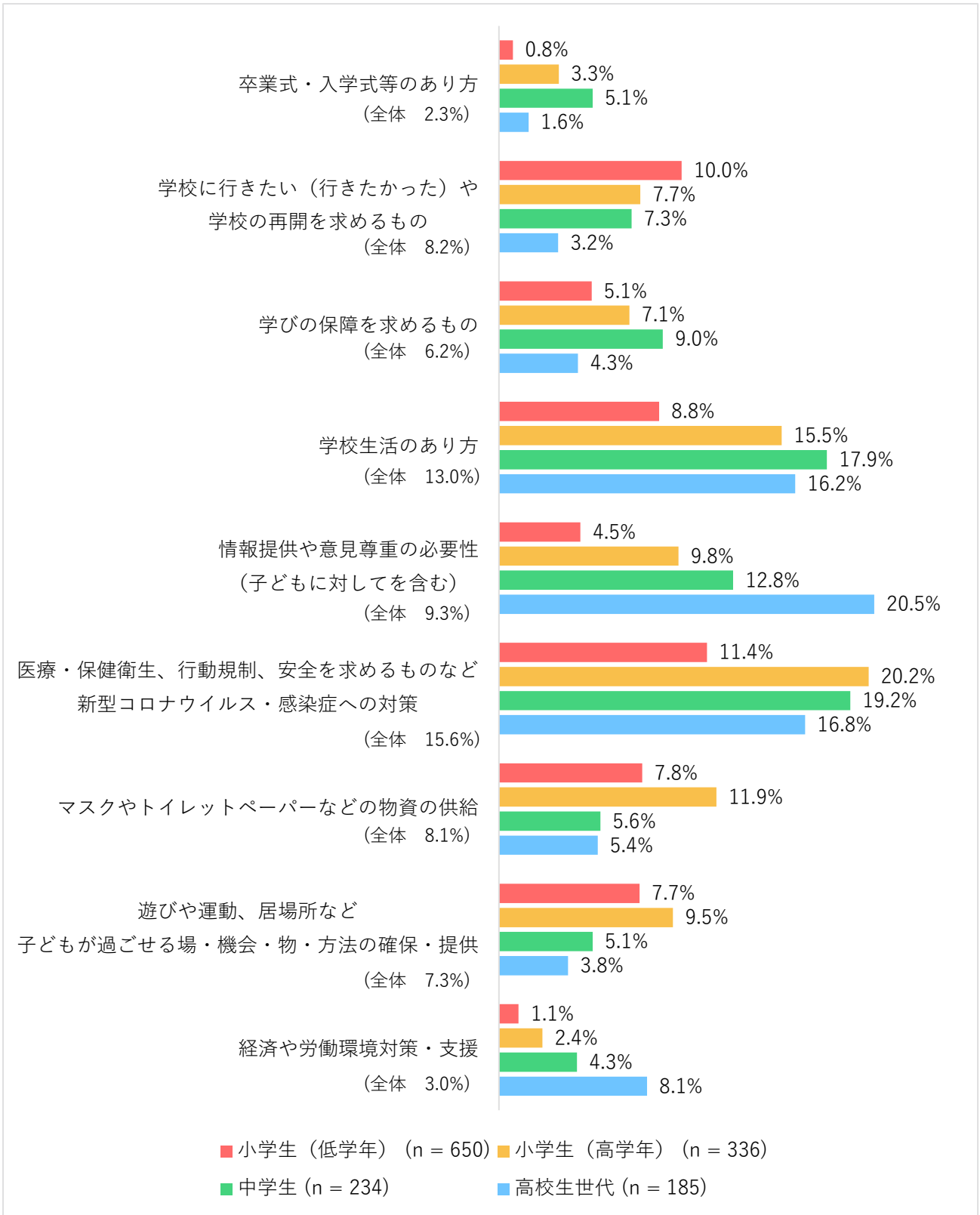
【大カテゴリー１】日中の過ごし方



【大カテゴリー２】困っていること・心配なこと・気になっていること



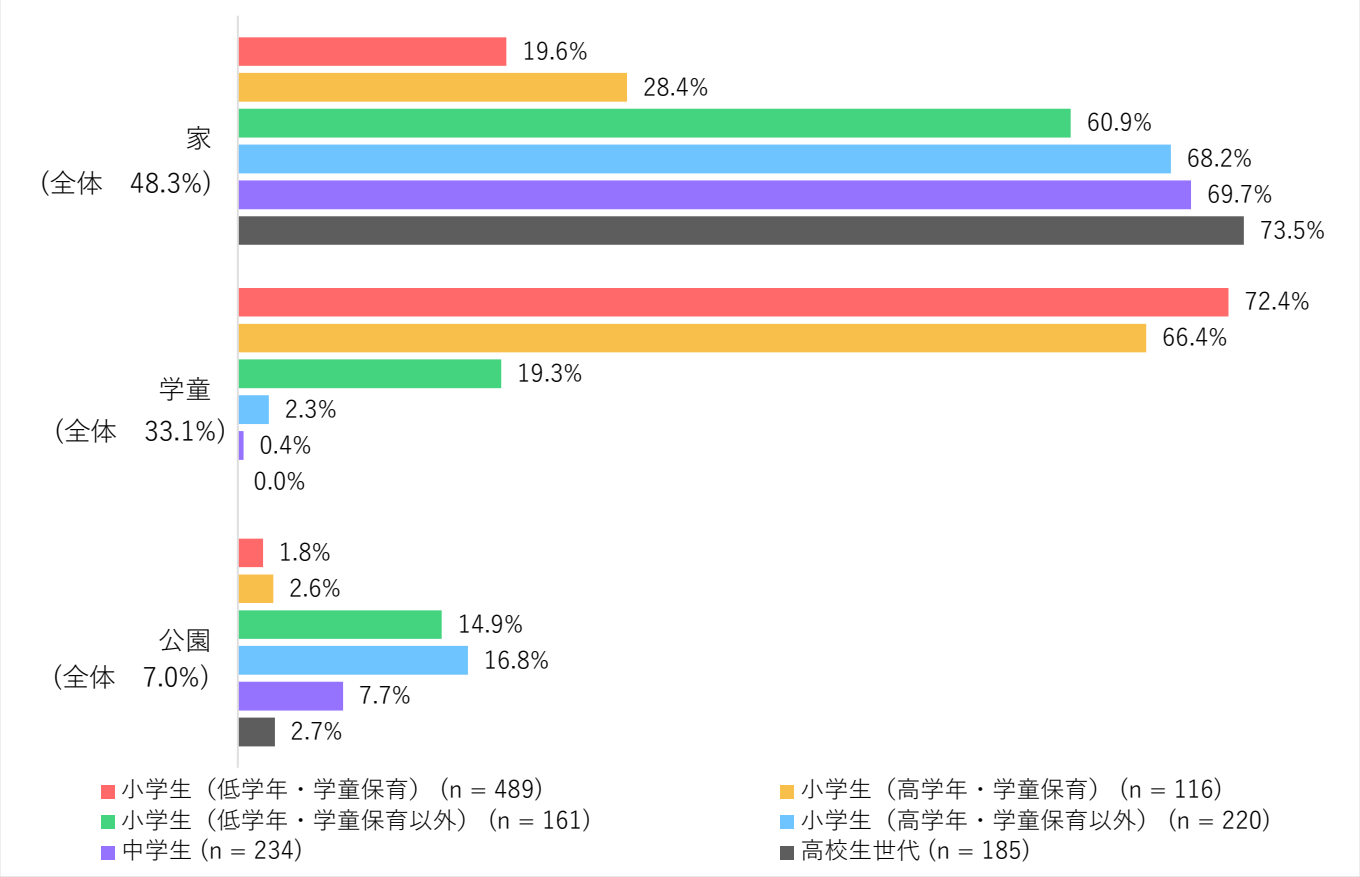
【大カテゴリー3】新型コロナウイルス対応策に関する要望



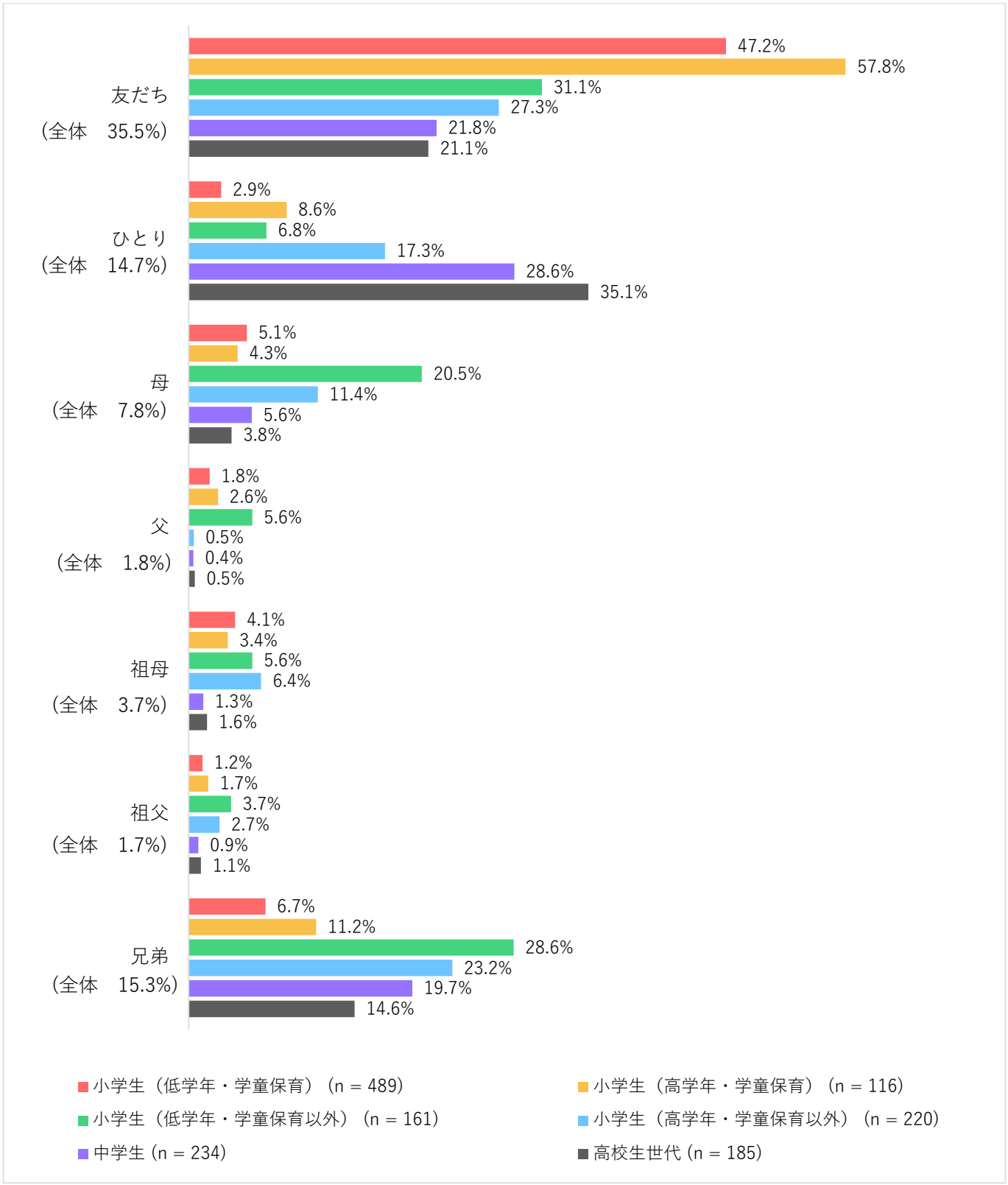
➢　過ごし方に関する集計結果（補足）

本編では、回答内容や件数をふまえ子どもの権利の観点から重要であると思われる内容をカテゴリーとして設定し、該当する回答を紹介したためカテゴリーに分類されていない回答もある。特に大カテゴリーの１つ「日中の過ごし方」の小カテゴリーは、「一人で過ごしている時間がある」「家に子どもだけで過ごす時間がある」「ひま、退屈、つまらないと感じている」の３つのみであり、過ごす場所・一緒に過ごす人・過ごし方に関して掲載しきれていない部分があるため、補足資料としてクロス集計結果を掲載する。なお、本集計結果は設問３「あなたは、学校が休みになってから、昼間どこで・だれと・なにをしてすごしていますか？（いくつでも）」の回答について、本編と同様に４つの年齢区分に分け、また小学生については学童保育経由で回収したかどうかで分けて、集計したものである。

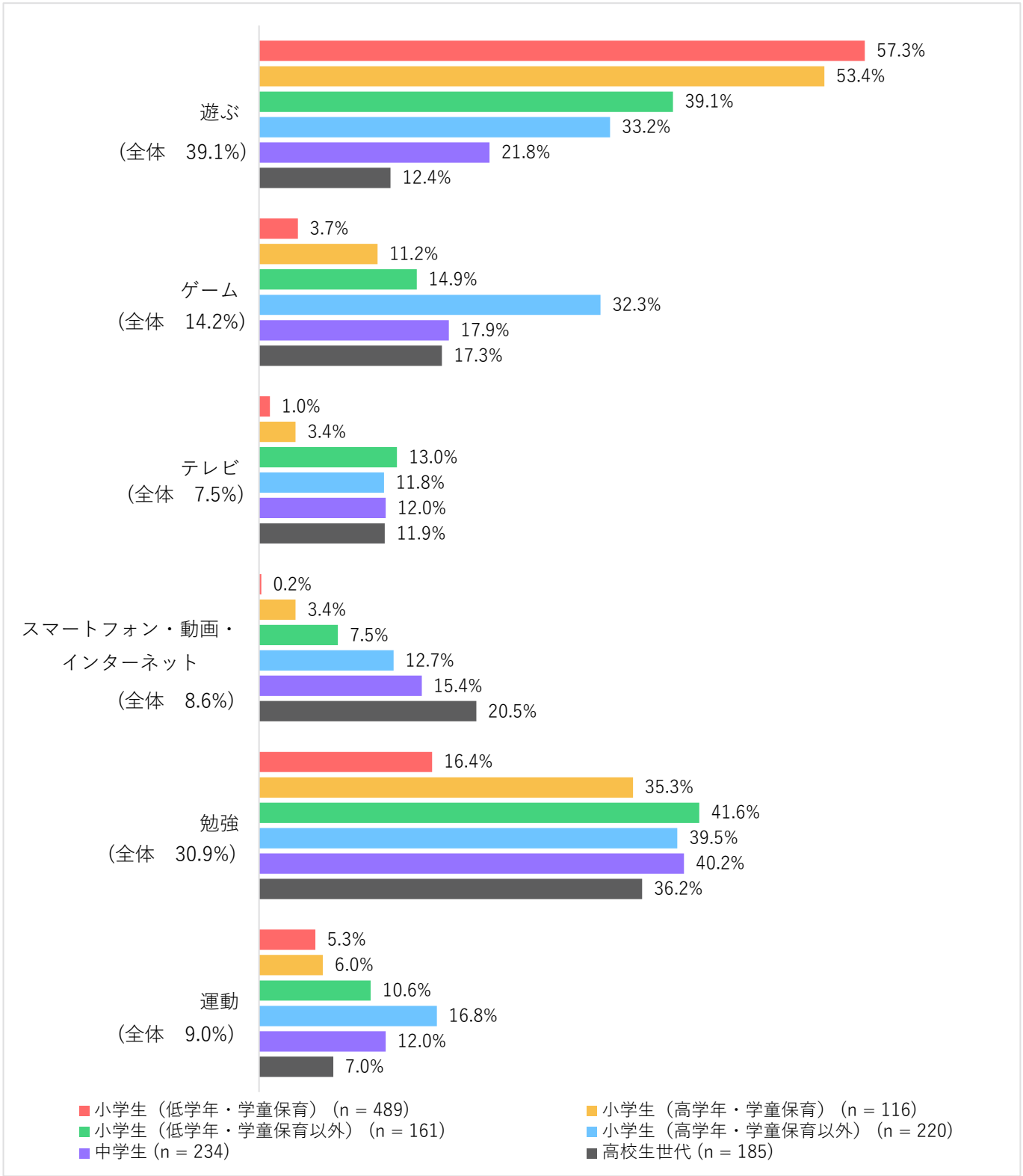
(1) 過ごす場所



(2) 一緒に過ごす人

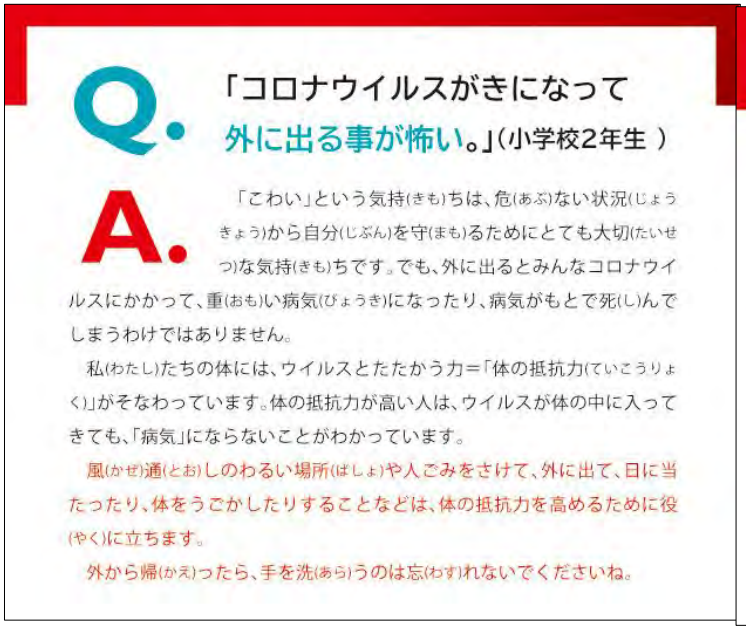

友だち
(全体　35.5%)
47.2%
57.8%
31.1%
27.3%
21.8%
21.1%
ひとり
(全体　14.7%)
2.9%
8.6%
6.8%
17.3%
28.6%
35.1%
母
(全体　7.8%)
5.1%
4.3%
20.5%
11.4%
5.6%
3.8%
父
(全体　1.8%)
1.8%
2.6%
5.6%
0.5%
0.4%
0.5%
祖母
(全体　3.7%)
4.1%
3.4%
5.6%
6.4%
1.3%
1.6%
祖父
(全体　1.7%)
1.2%
1.7%
3.7%
2.7%
0.9%
1.1%
兄弟
(全体　15.3%)
6.7%
11.2%
28.6%
23.2%
19.7%
14.6%
小学生（低学年・学童保育）（n = 489）
小学生（高学年・学童保育）（n = 116）
小学生（低学年・学童保育以外）（n = 161）
小学生（高学年・学童保育以外）（n = 220）
中学生 (n = 234)
高校生世代 (n = 185)

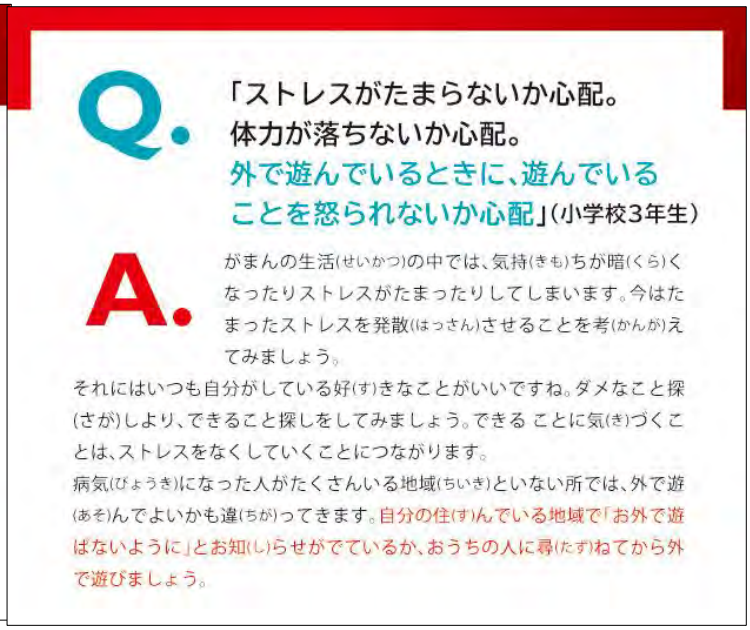
(3) 過ごし方

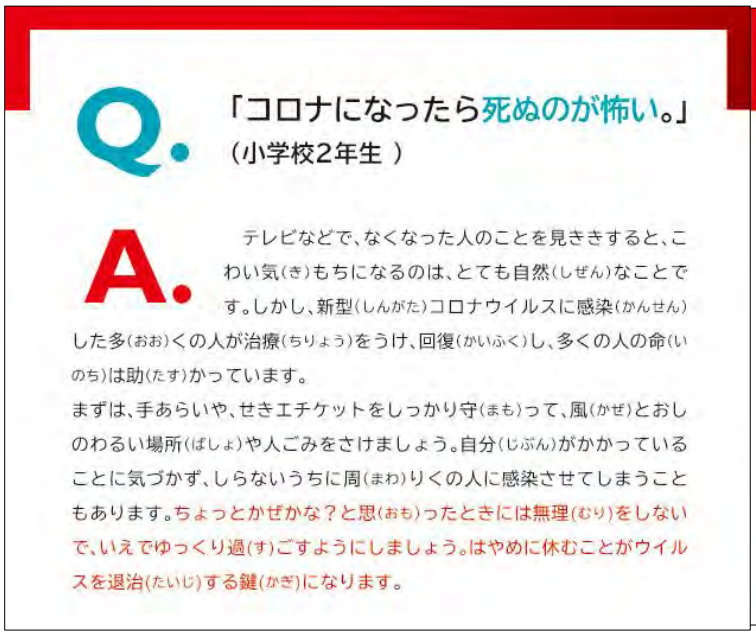

遊ぶ
（全体　39.1%）
57.3%
53.4%
39.1%
33.2%
21.8%
12.4%
ゲーム
（全体　14.2%）
3.7%
11.2%
14.9%
32.3%
17.9%
17.3%
テレビ
（全体　7.5%）
1.0%
3.4%
13.0%
11.8%
12.0%
11.9%
スマートフォン・動画・
インターネット
（全体　8.6%）
0.2%
3.4%
7.5%
12.7%
15.4%
20.5%
勉強
（全体　30.9%）
16.4%
35.3%
41.6%
39.5%
40.2%
36.2%
運動
（全体　9.0%）
5.3%
6.0%
10.6%
16.8%
12.0%
7.0%
小学生（低学年・学童保育）（n = 489）
小学生（低学年・学童保育以外）（n = 161）
中学生 (n = 234)
小学生（高学年・学童保育）（n = 116）
小学生（高学年・学童保育以外）（n = 220）
高校生世代 (n = 185)

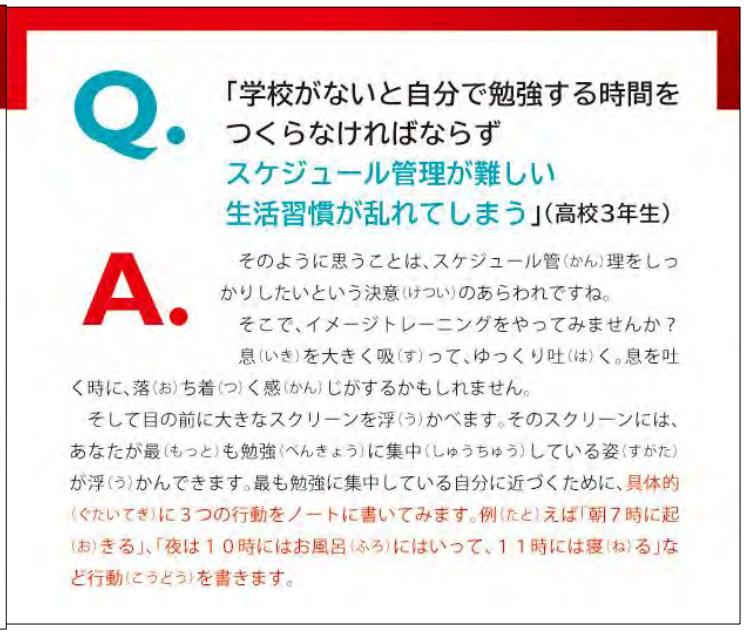
➢　**子どもたちに読んでほしい「こんなとき、どうする？」**

緊急子どもアンケートで寄せられた子どもたちの不安や心配の声のうち 6 つの声に関して、日本臨床心理士会と日本公認心理師協会の協力のもと、1 問 1 答の形で、セーブ・ザ・チルドレンの SNS で発信しました。（2020 年 4 月）https://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?d=3223









Save the Children

Q. 「悪夢を見るようになった」（高校1年生）

A. 子どもは大人より悪夢を見ることが多いようです。今までの生活が急に変わり、ストレスを感じていたり、日中の運動量が少なくなることで、寝ている間に目が覚めるようになった、あるいは睡眠時間が短くなっていませんか。このような変化があると、眠りが浅くなり、悪夢をみることがあると考えられています。悪夢をみることは、このような大きなストレスを体験したときには、自然な反応です。なので、まずは、夜にかけてリラックスして過ごすのもよいです。また、日中、軽く汗をかくぐらい運動することもよいですよ。

ただ、ほぼ毎日悪夢を見て、それがとても苦しいようであれば、心の専門家に相談してみてください。まずは、あなたの身近にいる学校の担任や保健の先生、スクール・カウンセラーに伝えるのもよいです。医療機関にかかる場合は、ご家族の方と相談してみてくださいね。

Q. 「食生活が乱れること。生活リズムが崩れること」（小学校6年生）

A. 家にいる時間が長いと、ついお菓子を食べすぎてしまったり、好きなものばかりに偏ってしまいがちですね。食事は私たちが動いたり考えたりするエネルギーの元になるのでとても大事です。まずは、食事のバランスを、1日、または数日単位で考えてみましょう。いろいろな料理を組み合わせて食べたり、いろいろな食材を使っている料理を選んでみましょう。また、家族の人と一緒に献立を考えたり、料理をしてみるのはどうでしょう。おうちの人が栄養バランスを考えてメニューを決めていることに気づいたり、自分にもできることを発見して嬉しくなったりするかもしれません。家にある食材でできるメニューをゲーム感覚で考えてみるのもよいでしょう。

食生活の乱れと生活リズムの崩れは、同時に起りやすいですね。生活リズムを戻すには「毎日の日課」と「楽しみ」を日々の生活に取り入れるとよいでしょう。例えばおうちの人と一緒にご飯やおやつを作ってみる、掃除や洗濯をしてみるなど。「おうちの中の時間割」を決めてやってみましょう。

もう一つ、生活リズムを取り戻すコツは、毎朝決まった時間に起きること。学校がお休みだとつい朝起きるのが遅くなっちゃうけど、おうちの人と相談して起きる時間を決めてみてください。

<親や養育者の皆さまへ>子どもが、少しでも決めたことに取り組めていたら、たくさんほめてあげましょう。

➢　国連・子どもの権利委員会：新型コロナ感染症（COVID-19）に関する声明

平野裕二訳
https://w.atwiki.jp/childrights/pages/327.html より全文引用

子どもの権利委員会は、COVID-19 パンデミックが子どもたちに及ぼす重大な身体的、情緒的および身体的影響について警告するとともに、各国に対し、子どもたちの権利を保護するよう求める。

子どもの権利委員会は、COVID-19 パンデミックの影響による世界中の子どもたち（とくに、脆弱な状況に置かれている子どもたち）の状況について懸念を表明する。とくに緊急事態および義務的ロックダウンを宣言した国々において、多くの子どもたちが身体的、情緒的および心理的に重大な影響を受けている。

１０の人権条約機関が発した宣言に加えて、委員会はさらに、各国に対し、COVID-19 パンデミックが突きつける公衆衛生上の脅威に対処するための措置をとるうえで子どもの権利を尊重するよう促すものである。とくに委員会は、各国に対し、以下の措置をとるよう求める。

１．**今回のパンデミックが子どもの権利に及ぼす健康面、社会面、情緒面、経済面およびレクリエーション面の影響を考慮すること。**当初は短期のものとして宣言されたとはいえ、各国の緊急事態宣言および（または）災害宣言がより長期間維持され、人権の享受に対するさらに長期間の制限につながる可能性があることは明らかになっている。委員会は、危機の状況にあっては、公衆衛生を保護するため、一部の人権の享受の制限につながる可能性がある措置が国際人権法において例外的に許容されていることを認識するものである。しかしながら、このような制限は必要な場合にのみ課され、比例性を有しており、かつ最小限のものに限られなければならない。加えて、COVID-19 パンデミックのために財源の利用可能性に相当の悪影響が生じる可能性があることは認知しながらも、これらの困難は条約実施を阻害するものとみなされるべきではない。このような困難にもかかわらず、各国は、パンデミックへの対応（資源の配分の制約および資源の配分に関する決定を含む）が子どもの最善の利益の原則を反映したものになることを確保するべきである。

２．**子どもたちが休息、余暇、レクリエーションおよび文化的・芸術的活動に対する権利を享受できるようにするための、オルタナティブかつ創造的な解決策を模索すること。**このような解決策には、社会的距離を保つための要領およびその他の衛生基準を尊重する監督下での野外活動（少なくとも１日１回）、ならびに、テレビ、ラジオおよびオンラインにおける子どもにやさしい文化的・芸術的活動が含まれるべきである。

３．**オンライン学習が、すでに存在する不平等を悪化させ、または生徒・教員間の相互交流に置き換わることがないようにすること。**オンライン学習は、教室における学習に代わる創造的な手段ではあるが、テクノロジーもしくはインターネットへのアクセスが限られているもしくはまったくない子ども、または親による十分な支援が得られない子どもにとっては、課題を突きつけるものでもある。このような子どもたちが教員による指導および支援を享受できるようにするための、オルタナティブな解決策が利用可能とされるべきである。

４．緊急事態、災害またはロックダウンの期間中、**子どもたちに栄養のある食事が提供されるようにするための即時的措置を起動させること。**学校給食制度を通じてしか栄養のある食事を得られない子どもたちも多いためである。

５．**子どもたちへの、保健ケア、水、衛生および出生登録を含む基礎的サービスの提供を維持すること。**保健制度への圧力の高まりおよび資源の欠乏にもかかわらず、子どもたちは保健ケアへのアクセス（検査および将来開発される可能性があるワクチン、COVID-19 関連の治療および COVID-19 とは関係のない治療、精神保健サービスならびに既存疾患の治療へのアクセスを含む）を否定されるべきではない。子どもたちはまた、緊急事態、災害またはロックダウンの期間中、清潔な水および衛生設備にもアクセスできるべきである。出生登録サービスは停止されるべきではない。

６．**子どもの保護のための中核的サービスを必須サービスに位置づけ、これらのサービス（必要な場合の家庭訪問を含む）が機能し続けかつ利用可能とされ続けることを確保するとともに、ロックダウン下で暮らしている子どもたちに対し、専門家による精神保健サービスを提供すること。**子どもたちは、外出制限により、家庭におけるいっそうの身体的および心理的暴力にさらされ、または過密でありかつ最低限の居住適正条件を欠いた家庭で過ごすことを余儀なくされる可能性がある。障害および行動上の問題がある子どもたちおよびその家族は、密室においてさらなる困難に直面しかねない。各国は、電話およびオンラインによる通報・付託制度ならびにテレビ、ラジオおよびオンライン経路を通じた注意喚起・意識啓発活動を強化するべきである。COVID-19 パンデミックの経済的および社会的影響を緩和するための戦略にも、子どもたち（とくに貧困下で暮らしている子どもおよび十分な住居にアクセスできていない子ども）を保護するための具体的措置を含めることが求められる。

７．**パンデミックが引き起こす例外的状況によって脆弱性がいっそう高まる子どもたちを保護すること。**これには、障害のある子ども、貧困下で暮らしている子ども、路上の状況にある子ども、移住者・庇護申請者・難民・国内避難民である子ども、マイノリティおよび先住民族の子ども、ＨＩＶ／ＡＩＤＳを含む基礎疾患がある子ども、自由を奪われている子どもまたは警察の留置場、刑事施設、閉鎖養護施設、移住者拘禁施設もしくはキャンプに収容されている子どもならびに施設で暮らしている子どもが含まれる。各国は、COVID-19 パンデミックに対処するための措置において差別を受けないすべての子どもの権利を尊重するとともに、脆弱な状況に置かれている子どもたちを保護するための焦点化された措置をとるべきである。

８．**あらゆる形態の拘禁下に置かれている子どもたちを可能な場合には常に解放するとともに、解放することのできない子どもたちに対し、家族との定期的接触を維持するための手段を提供すること。**多くの国は、施設で暮らしている子どもまたは自由を奪われている子ども（警察施設、刑事施設、閉鎖施設、移住者拘禁施設もしくはキャンプに収容されている子どもを含む）との面会および接触の機会を制限する措置をとっている。これらの制限は短期的には必要な措置とみなされうるものの、長期に及べば子どもたちに著しい悪影響をもたらすことになろう。子どもたちは常に、家族との定期的接触を、直接ではないにせよ電子的通信または電話を通じて維持することを認められるべきである。緊急事態、災害宣言または国の命令による外出制限の期間が延長される場合、このような面会を

禁止する措置の再評価を考慮することが求められる。移住の状況下にある子どもたちは拘禁されるべきではなく、また親がいっしょにいる場合には親から引き離されるべきでもない。

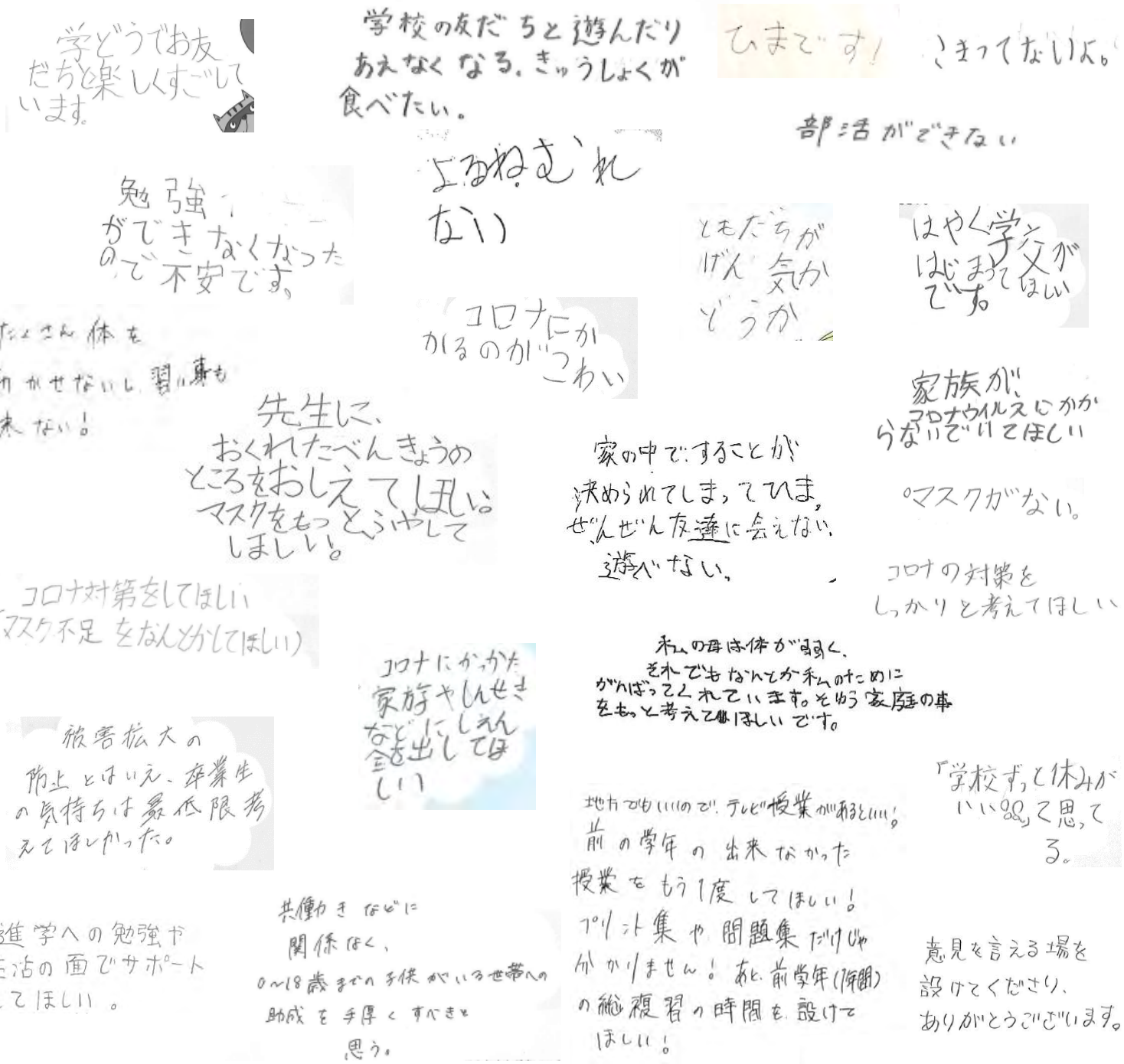
９．**COVID-19 に関連する国の指導および指示に違反したことを理由とする子どもの逮捕または拘禁を行なわないようにする**とともに、逮捕または拘禁されたいかなる子どもも直ちに家族のもとに帰されるようにすること。

１０．**COVID-19 および感染予防法に関する正確な情報を、子どもにやさしく、かつすべての子ども**（障害のある子ども、移住者である子どもおよびインターネットへのアクセスが限られている子どもを含む）**にとってアクセス可能な言語および形式で普及すること。**

１１．**今回のパンデミックに関する意思決定プロセスにおいて子どもたちの意見が聴かれ、かつ考慮される機会を提供すること。**子どもたちは、現在起きていることを理解し、かつパンデミックへの対応の際に行なわれる決定に参加していると感じることができるべきである。

２０２０年４月８日

※FAX・郵送・写真で送られた子どもたちの直筆回答のうち、判読が可能なもの・個人が特定されないものの一部をセーブ・ザ・チルドレンが抜粋しました。



＜本報告書に関する問い合わせ先＞公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（担当：田代・松山・林）

〒101-0047　東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4 階　セーブ・ザ・チルドレン　国内事業部

電話：03-6859-6869（平日 9:00-17:00）　FAX：03-6859-0069　E-mail：japan.soap@savethechildren.org